

コロナ禍における認知症カフェに関する実態調査 (報告書)

2021年12月

愛知県

目次

I. 調査の目的.....	1
II. 調査方法・回収状況	1
III. 市町村調査の結果	2
IV. 認知症カフェ調査の結果.....	18
V. 本人・家族ヒアリング	47
参考資料（調査票）	

I. 調査の目的

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、認知症カフェにおいても従来どおりの運営が困難となっている。こうしたなか、県内市町村及び認知症カフェを対象とした実態調査を実施し、コロナ禍における認知症カフェの現状（開催状況、開催形式、コロナ前後での変化等）や課題、取組事例等について把握する。

II. 調査方法・回収状況

調査概要は以下のとおりである。

1 市町村

調査対象	県内 54 市町村
調査方法	県からメールにて調査票を送付
調査期間	2021 年 8 月 6 日～8 月 17 日

2 認知症カフェ

調査対象	県内の認知症カフェ 506 か所
調査方法	送付：市町村経由で調査票の送付（メール、郵送等） 一部、県から郵送にて調査票を送付 回収：FAX もしくはメールにて返送
調査期間	2021 年 8 月 6 日～8 月 31 日

3 本人・家族ヒアリング

実施人数・方法	本人：2 人（個別ヒアリング） 家族：22 人（認知症の人と家族の会世話人会、及び個別ヒアリング）
実施時期	2021 年 8 月、10 月、11 月

○回収結果

	配布数	回収数	回収率
認知症カフェ	506	327	64.6%
市町村	54	52	96.3%

※ 認知症カフェ調査の回収数については、有効回答があったもの

III. 市町村調査の結果

1-1 把握している認知症カフェの数

2021年6月末時点で、県内全体で506箇所のカフェが把握されており、開設主体としては「介護保険事業所」が253か所と5割を占めている。

開設主体	市町村把握数 (休止中含む)	割合
市町村	9	1.8%
地域包括支援センター	46	9.1%
介護保険事業所	253	50.0%
介護保険事業所以外の社会福祉法人	17	3.4%
認知症疾患医療センター	1	0.2%
医療機関	29	5.7%
薬局	12	2.4%
NPO法人	31	6.1%
ボランティア・地域住民	63	12.5%
民間事業者	43	8.5%
その他	2	0.4%
	506	100.0%

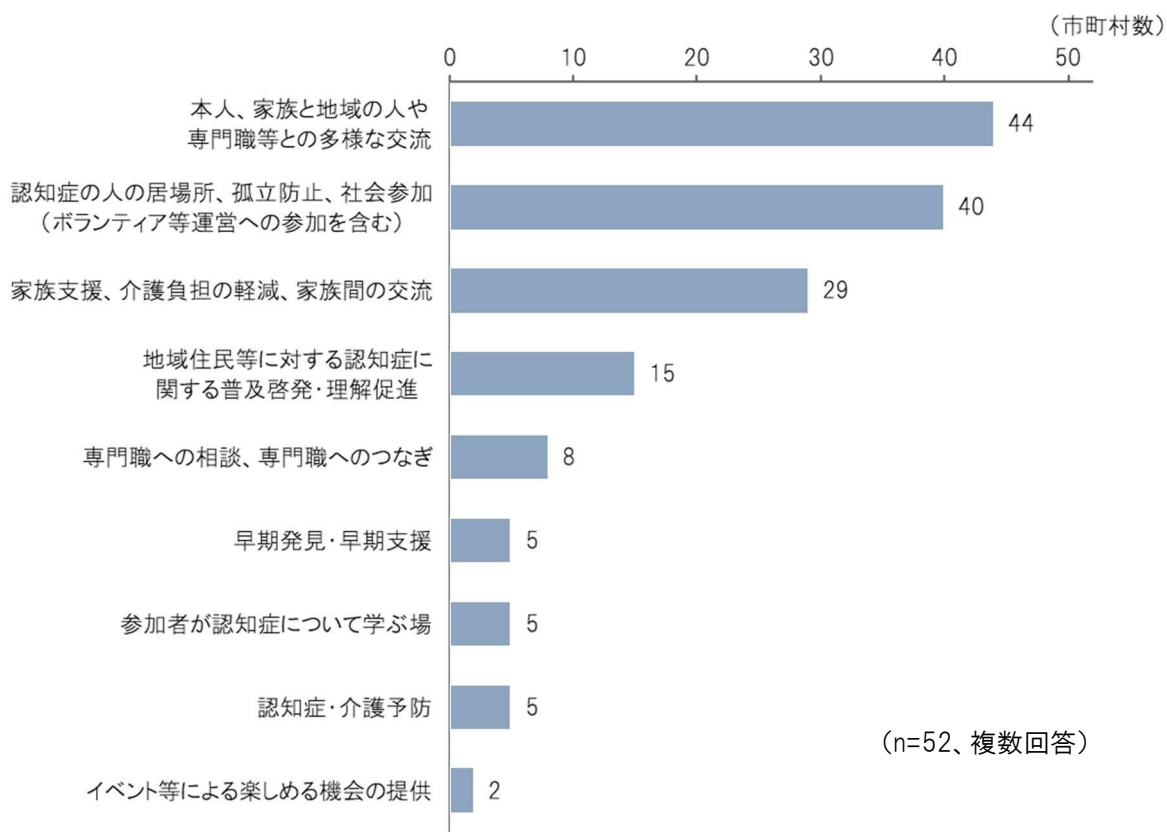
1-2 開催している認知症カフェの数

開催しているカフェは、開設主体別にみると、「市町村」、「NPO法人」、「ボランティア・地域住民」、「民間事業者」等では開催しているカフェが多いが、「介護保険事業所」や「医療機関」では低くなっている。

開設主体	市町村把握数 (休止中含む)(a)		開催している 箇所数(b)		開催している 割合(b/a)
		構成比		構成比	
市町村	9	1.8%	6	3.2%	66.7%
地域包括支援センター	46	9.1%	25	13.4%	54.3%
介護保険事業所	253	50.0%	48	25.8%	19.0%
介護保険事業所以外の社会福祉法人	17	3.4%	7	3.8%	41.2%
認知症疾患医療センター	1	0.2%	0	0.0%	0.0%
医療機関	29	5.7%	2	1.1%	6.9%
薬局	12	2.4%	2	1.1%	16.7%
NPO法人	31	6.1%	20	10.8%	64.5%
ボランティア・地域住民	63	12.5%	39	21.0%	61.9%
民間事業者	43	8.5%	37	19.9%	86.0%
その他	2	0.4%	0	0.0%	0.0%
	506	100.0%	186	100.0%	36.8%

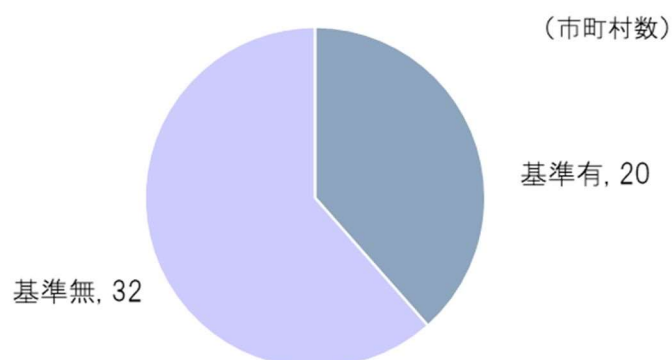
2 認知症カフェに期待する役割

「本人、家族と地域の人や専門職等との多様な交流」が最も多く 44 市町村、次いで「認知症の人の居場所、孤立防止、社会参加（ボランティア等運営への参加を含む）」が 40 市町村、「家族支援、介護負担の軽減、家族間の交流」が 29 市町村あった。



3-1 認知症カフェとして位置づける際の基準の有無

「基準有」が 20 市町村、「基準無」が 32 市町村であった。



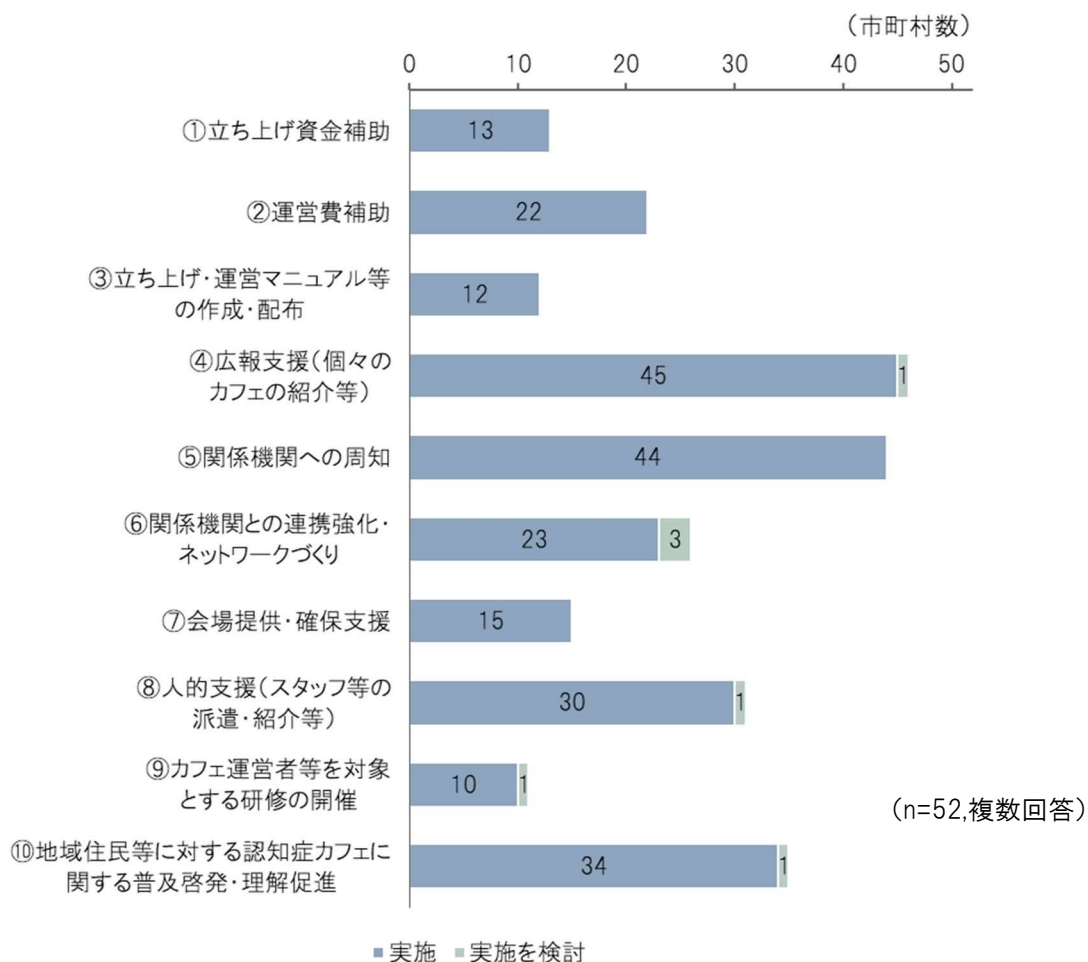
3-2 認知症カフェとして位置づける際の基準の内容

「開催回数」が 12 市町村、次いで「運営スタッフの属性」が 11 市町村であった。

基準の内容	市町村数	内容
開催回数	12	年4回以上(2),2カ月に1回以上(1),月1回以上(7),月1回以上3年以上(1),継続的開催(1)
開催時間	7	1時間(1),2時間(6)
参加対象者属性	10	認知症の人本人(10),家族(10),地域住民(10)
運営スタッフ属性	11	専門職(5),専門職と補助者(3),認知症サポーター等(2),介護保険事業所(1)

4 認知症カフェに対する支援の実施状況

実施されている支援としては、「広報支援（個々のカフェの紹介等）」が 45 市町村、次いで「関係機関への周知」が 44 市町村、「地域住民に対する認知症カフェに関する普及啓発・理解促進」が 34 市町村であった。



4① 立ち上げ資金補助

13 市町村で実施しており、カフェの開設に必要な経費として 30,000 円～100,000 円程度の補助、市町村が定める通いの場としての条件を満たす場合に補助等があった。

4② 運営費補助

22 市町村で実施しており、カフェの運営に必要な経費として、開催回数等に応じて、年額 20,000 円～200,000 円程度（月額の場合もあり）の補助、委託業務として実施等があった。

4③ 立ち上げ・運営マニュアル等の作成・配布(マニュアルの作成者)

12 市町村で実施しており、「認知症の人と家族の会愛知県支部作成」が 8 市町村、次いで「その他機関が作成」（いずれも地域包括支援センター）が 3 市町村であった。

(n=12)

内容	市町村数
独自作成	1
認知症の人と家族の会愛知県支部作成	8
その他機関作成	3

4④ 広報支援(方法)

45 市町村で実施しており、「市町村 HP 掲載」が最も多く 31 市町村、次いで「市町村広報誌掲載」が 29 市町村、「ケアパス掲載」26 市町村であった。

(n=45,複数回答)

内容	市町村数
市町村HP掲載	31
市町村広報誌掲載	29
ケアパス掲載	26
公共機関にチラシ配架	20
その他	16

4⑤ 関係機関への周知(周知先)

44 市町村で実施しており、「地域包括支援センター」が 44 市町村、次いで「初期集中支援チーム」が 37 市町村、「介護保険事業所」が 22 市町村であった。

(n=44,複数回答)

内容	市町村数
地域包括支援センター	44
初期集中支援チーム	37
医療機関	14
介護保険事業所	22
認知症サポーター	21
民生委員	15
町内会・自治会	4
その他	3

4⑥ 関係機関との連携強化・ネットワークづくり(実施内容)

23 市町村で実施しており、「連絡会・交流会等の設置・開催」が 12 市町村、「定期的な情報共有」が 9 市町村であった。

(n=23,複数回答)

内容	市町村数
定期的な情報共有	9
連絡会・交流会等の設置・開催	12
その他	5

4⑦ 会場提供・確保支援(内容)

15 市町村で実施しており、「公共施設の優先利用・使用料減免」が 11 市町村であった。

(n=15,複数回答)

内容	市町村数
公共施設の優先利用・使用料減免	11
その他	3

4⑧ 人的支援(派遣人員及び派遣目的)

行政職員は、「課題把握・情報共有」と「運営補助」が16市町村、地域包括支援センターは、「相談対応」が20市町村、認知症地域支援推進員は、「相談対応」が23市町村、専門職は「相談対応」が8市町村、認知症サポーターは「運営補助」が7市町村、ボランティアは「運営補助」が11市町村で、それぞれ最も多かった。

(複数回答)

人材	目的	企画運営	課題把握 情報共有	相談対応	運営補助
行政職員 (n=23)		8	16	15	16
地域包括支援センター職員 (n=21)		10	17	20	15
認知症地域支援推進員 (n=25)		14	22	23	19
専門職 (n=10)		1	3	8	4
認知症サポーター (n=8)		2	0	1	7
ボランティア (n=12)		6	2	1	11
その他 (n=5)		1	4	3	4

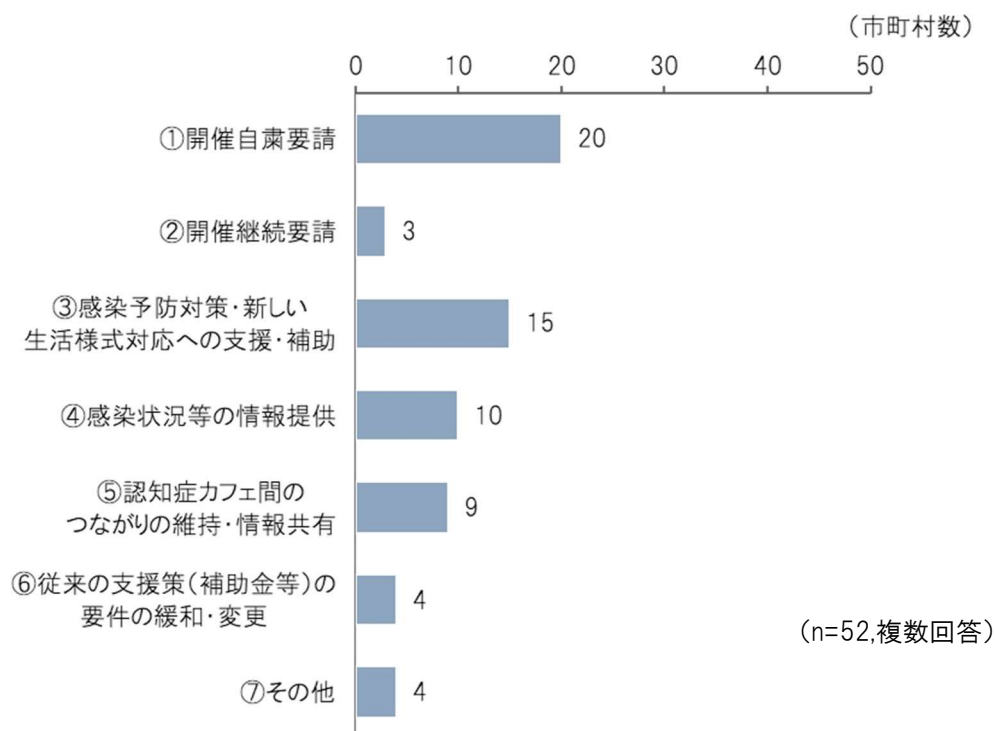
4⑨ カフェ運営者等を対象とする研修の開催

10市町村で実施されており、テーマ・講師は以下のとおり。

- 「地域で広がる認知症カフェ」(認知症介護研究・研修仙台センター 矢吹 知之氏)
- 「コッシーと行く認知症カフェ大冒険」(フォトグラファー&ジャーナリスト コスガ 聡一氏)
- 「認知症カフェ学習会「ご存じですか?認知症カフェ」
(認知症介護研究・研修大府センター 斎藤 千晶氏)
- 「認知症カフェの運営における目的や実施の実際」
(特定非営利活動法人 HEART TO HEART 理事長 尾之内 直美氏)
- 「認知症カフェについての課題とより良いカフェになるよう工夫の共有」
(情報交換・共有のための認知症カフェスタッフ同士の交流会のため講師なし)
- 「コロナ状況下の認知症カフェ」(認知症介護研究・研修仙台センター 矢吹 知之氏)
- 「認知症カフェ ボランティア養成講座」(地域包括支援センター)
- 「認知症サポーター養成講座」(市役所高齢福祉課職員 キャラバンメイト)
- 「認知症施策の現状と今後・京都府における認知症施策について」
(京都府立医科大学大学院医学研究科 成本 迅氏 他)
- 「認知症の理解を深めよう！」
(認知症看護認定看護師、認知症介護指導者、認知症カフェ運営者)
- 「介護者支援の必要性と内容について」(NPO 法人てとりん代表理事 岩月 万季代氏)
- 「インフルエンザ」(医師)
- 「介護予防 口腔ケア」(歯科衛生士)

5 新型コロナウイルス感染症拡大に係る認知症カフェへの対応・支援

「開催自粛要請」が最も多く 20 市町村、次いで「感染予防対策・新しい生活様式対応への支援・補助」が 15 市町村、「感染状況等の情報提供」が 10 市町村であった。



5① 開催自粛要請(判断基準)

「自治体の方針」が最も多く 12 市町村、次いで「担当課の判断」が 10 市町村、「運営者やスタッフからの要請」が 8 市町村であった。

(n=20,複数回答)

内容	市町村数
自治体の方針	12
担当課の判断	10
会場の都合	6
運営者やスタッフからの要請	8
住民からの意見	0
本人・家族からの意見	0
その他	1

5② 感染予防対策・新しい生活様式対応への支援・補助(実施内容)

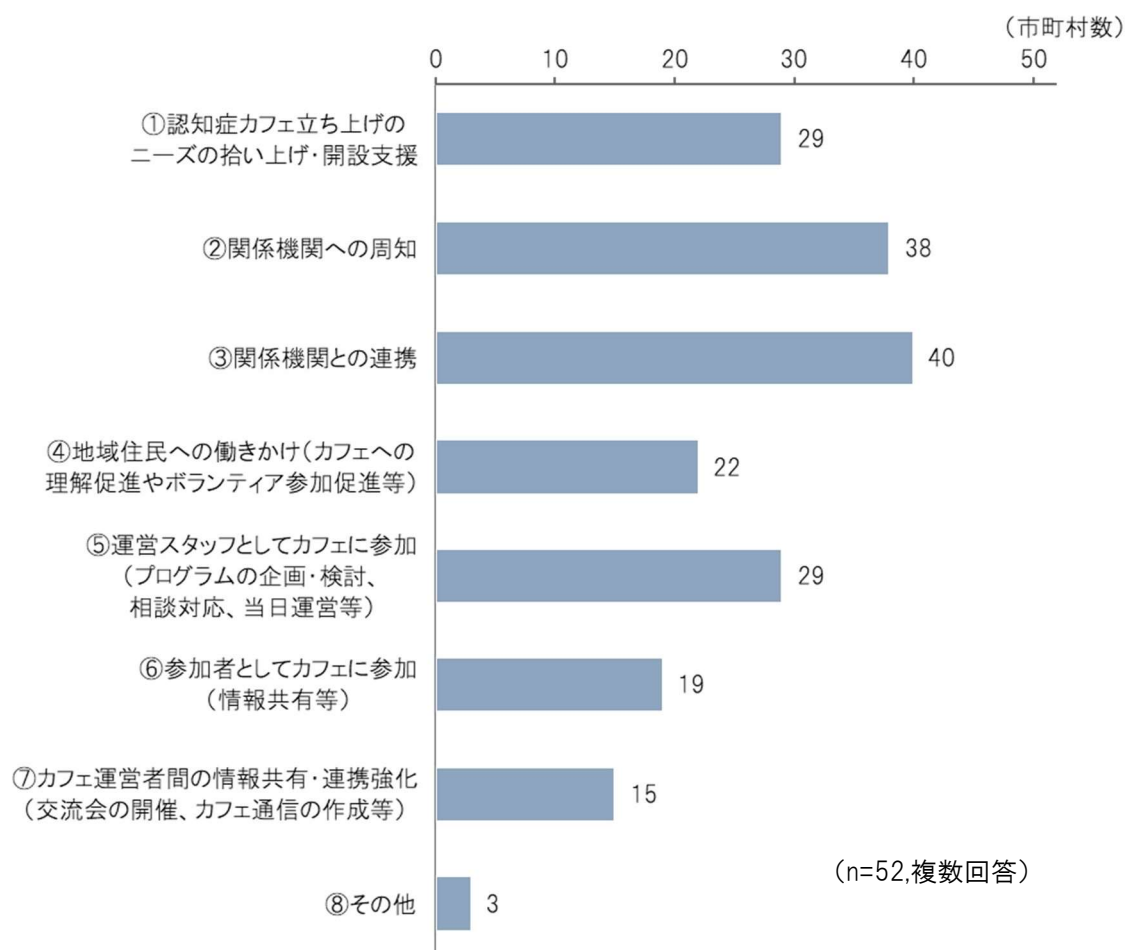
「消毒液・アクリル板・体温計等感染予防に関する物品等の配布・購入補助」が 11 市町村、次いで「他事例等の情報提供」が 3 市町村であった。

(n=15,複数回答)

内容	市町村数
消毒液・アクリル板・体温計等感染予防に関する物品等の配布・購入補助	11
オンライン活用支援	1
他事例等の情報提供	3
その他	1

6 認知症カフェに関する認知症地域支援推進員の活動内容

「関係機関との連携」が最も多く 40 市町村、次いで「関係機関への周知」が 38 市町村、「認知症カフェ立ち上げのニーズの拾い上げ・開設支援」と「運営スタッフとしてカフェに参加」が 29 市町村であった。



6② 関係機関への周知(周知先)

38 市町村の認知症地域支援推進員が実施しており、周知先として、「地域包括支援センター」が最も多く 35 市町村、次いで「初期集中支援チーム」が 28 市町村、「介護保険事業所」が 24 市町村であった。

(n=38,複数回答)

内容	市町村数
地域包括支援センター	35
初期集中支援チーム	28
医療機関	18
介護保険事業所	24
認知症サポーター	19
民生委員	16
町内会・自治会	10
その他	5

6③ 関係機関との連携(連携内容)

40 市町村の認知症地域支援推進員が実施しており、「対象となりそうな人への声かけ」が最も多く 36 市町村、次いで「カフェ参加者の必要な支援機関へのつなぎ」が 28 市町村であった。

(n=40,複数回答)

内容	市町村数
対象となりそうな人への声かけ	36
運営スタッフや専門職の紹介	10
カフェ参加者の必要な支援機関へのつなぎ	28
その他	4

7 認知症カフェに関する課題(自由記述)

主な意見

① 参加者に関すること

【市町村】	【認知症地域支援推進員】
<ul style="list-style-type: none">・ 認知症の本人の参加が少ない。・ 新規参加者が少ない。・ 参加者が固定されている。・ 男性が少ない。・ 認知症カフェそのものの認知度を高める。・ だれでも参加できる交流の場であることの周知が必要。・ 本人や物忘れで不安を感じている人に、情報が伝わっていない。・ 新しく参加される人は何をするとところなのかイメージしづらい。・ カフェに対する本人のニーズを把握できていない。・ 閉じこもりがちな本人や相談できずにいる家族等をカフェにつなげていない。・ 市役所窓口の相談から、カフェにつなげることが難しい。・ 本人と家族が参加することが多いが、本人の気分で参加が難しくなると、数か月家族が参加できなくなる。・ 公共交通機関が発達しておらず、カフェの会場へ出むこと自体が難しい人も多い。・ 会場までの交通手段がない。送迎が必要な人が参加できない。・ 認知症が気になり始めた不安や困惑が強い本人・家族、認知症を知りたいと思う市民が気軽に参加しつなげる場所になっていない。・ 「認知症カフェ」という名前に違和感を感じ、参加をためらう人もいる。・ 認知症の病識のない人を誘いにくい。・ 認知症に閉鎖的な地域では、参加に消極的で個別対応となる。・ コロナ禍で継続開催できず、信頼関係を築けない。・ 一度中止すると、その後の参加につながりにくい。	<ul style="list-style-type: none">・ 認知症本人・家族の参加が少ないカフェも多い。・ 介護者を主とした集まりとなっている。・ 固定メンバーの交流になっている。新規の参加者が少ない。・ 介護事業所併設のカフェでは参加者があるが、市民運営のカフェでは少ない。・ 男性の参加者が少ない。・ 若年性認知症の人の参加がない。・ 本人・家族の参加が少なく、当事者同士の交流、ピアサポートにならない。・ 家族の背景が様々なためピアサポートがうまくいかない。・ 本人の参加は家族が疲れてしまい、家族の息抜きにならない。・ 当事者の主体的なカフェ活動・運営への参画につながりにくい。・ 周知の方法が課題。・ 小さい自治体で、家族会等もなく認知症カフェ参加に対してどのくらいの需要があるか不明。・ 認知症地域支援推進員が参加者を募る仕組みづくり。・ カフェ対象者の選別が明確でないことや参加により得られる効果の目標があいまいで、誘いにくい。・ 参加につながるまでに時間がかかる。・ 地域包括支援センターの窓口では興味を持つ人も多いが参加につながらない。初回は推進員の同行等支援が必要。・ 本人・家族が参加しやすいよう、特に認知症初期の人の参加につながるよう支援が必要。・ 以前参加のあった人も、ADLの低下、事前予約のわずらわしさ等から足が遠のいている。・ 家族が仕事をしていると平日の参加は難しい。休日開催でも、継続的な参加は難しい。・ 送迎や移動手段がないと参加できない人がいる。・ 本人のみでの参加が難しいこともある。・ 認知症が気になり始めた不安や困惑が強い本人・家族、認知症を知りたいと思う市民が

	<p>気軽に参加しつながらる場所になっていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人・家族が行きたいと思っても勇気を出して行けない人もいる。 ・ 介護保険事業所以外でのカフェが少なく、介護に抵抗のある人が、気軽に参加したい場所になっていない。 ・ 医療機関開催のため、かかりつけではない人が参加しにくい。 ・ 地域の人は誰でも参加可としていたが、コロナ禍で不特定多数への周知ができない。 ・ コロナ禍で人数制限があり、本当に来てほしい人に声をかけられない。
--	---

② 運営に関すること

<p>【市町村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人手不足。 ・ 相談対応する専門職の不足。 ・ 専門職にとっては業務外での支援による負担感がある。 ・ 運営主体を担う団体の開拓。 ・ 認知症地域支援推進員が運営にかかわるには、業務量に限界がある。 ・ 地域包括支援センター主体のカフェが多く、運営を包括に頼っている。 ・ 地域包括支援センターの運営のため、業務上繁忙となることがある。介護予防事業とのすみわけが難しい。 ・ 主体的に動いてくれるボランティアが見つからない。 ・ ボランティア団体の高齢化。 ・ ボランティアや地区組織が立ち上げたカフェがない。 ・ 立ち上げ支援。 ・ レクリエーションが主目的になりやすく、相談や交流の場として機能しにくい。 ・ 自分の話を聞いてほしい人が多く、参加者全員が満足できる時間配分やテーマ設定が難しい。 ・ 当事者も運営に関われるとよい。 ・ 当事者不在で高齢者サロンのようになっているところがある。 ・ 地域包括支援センターごとにあるとよいが、増えない。開催場所が偏っている。 ・ 運営する場所の設定。 	<p>【認知症地域支援推進員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営スタッフの不足。 ・ 専門職にとっては業務外での支援による負担感がある。 ・ 認知症地域支援推進員が関与できていない。 ・ 地域包括支援センター頼りで、地域の介護事業所等、多様な機関、柔軟な運営主体での開催が難しい。 ・ ボランティアが増えない。専門知識を持つボランティアが少ない。 ・ ボランティアでは、実施できることに限界がある。 ・ できるだけ地域の方が中心になって運営してもらえるようにしている。 ・ 認知症地域支援推進員や地域包括支援センターが開設したカフェを、引き継いでくれる地域人材を探すことが難しい。 ・ レクリエーションが主目的になりやすく、相談や交流の場として機能しにくい。 ・ 全員参加型の楽しいメニューとなっているが、ゆっくり会話をしたい人には合わないかもしれない。 ・ ファシリテーターを置いているが、発言が偏ってしまう。 ・ 地域住民の集いの場（サロン化）しているところもあり、カフェとの差別化が困難。 ・ 「本人・家族が自由に語りことができ、地域住民の方の認知症への理解が深められる場」として地域に根付くよう継続した支援が必要。 ・ ユニフォームがあることでスタッフ（相談対
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ いつでも気軽に行ける場所としての設置が難しく、サービス事業所利用者が利用している認知症カフェへの参加となってしまう。 ・ ボランティアの場合、人材、場所、運営費の確保が難しい。 ・ 行政の運営で年数回の開催となり、定期的な場となっていない。 ・ 長く継続しないところがある。 ・ 運営事業所間の情報交換や交流が希薄。 ・ 法人、施設が運営主体のカフェが多くコロナ禍で中止となっている。 ・ 住民主体の運営団体では、コロナ禍で中止が続き、モチベーションが維持できない。 ・ コロナ禍で通常の開催が困難となっており、カフェの継続・再開に向けた支援が必要。 ・ コロナ禍でも行えるイベントや開催方法を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応等が可能)と分かるが、雰囲気は固くなる。 ・ 飲食時の誤嚥や急な体調不良のリスク等、緊急時の対応が不十分。 ・ 常設の喫茶店等では交流会開催日以外にも情報発信できるよう情報コーナー等の設置が必要。 ・ 法人、施設が運営主体のカフェが多くコロナ禍で中止となっている。 ・ 中止により運営者のモチベーションが低下してしまう。 ・ コロナ禍で通常の開催が困難となっているなか、努力をしているカフェへの支援が必要。 ・ 開催を楽しみにされている方が多く密になりやすい。 ・ 会場の都合で距離をとることが難しい。 ・ コロナ禍で、飲食が難しい状況や、マスク着用のお願いで和やかな雰囲気を作ることが難しい。 ・ 距離をおいての会話は、聞こえにくい。 ・ 飲食禁止、開催時間短縮でゆったりと語ることが難しく、ミニ講座中心となっている。 ・ コロナ禍で今までのイベントに代わるイベントを考える必要がある。 ・ コロナの影響で中止や日程変更となった際に、周知方法がない。 ・ コロナ禍で予約制、人数制限を行っているが、予約なしの飛び込み参加も多い。 ・ コロナ禍で、市の補助制度等の周知(カフェ開設・運営説明会等)ができない。
--	---

③ 地域における理解に関すること

<p>【市町村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の人しか参加してはいけないと認識されており、地域住民の参加が少ない。 ・ 「認知症カフェ」という名前から、本人・家族のみを対象とした場所とされている。 ・ 認知症カフェが何をしているところが理解されず、参加しにくいとの声がある。 ・ 認知症に対するマイナスなイメージが強い地域では、本人・家族が認知症を認めなかったり隠したりすることで、孤立したり、必要な支援につながりにくいことがある。 ・ 認知症に対し否定的な意識が多く、地域の中で見守るという考えにはなっていない。 	<p>【認知症地域支援推進員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「認知症カフェ」という名前から、本人・家族のみを対象とした場所とされている。 ・ 「認知症カフェ」という名前から、そこに行くこと認知症と思われるので、という声がある。 ・ 参加してもらいやすいよう、チラシに「認知症カフェ」の記載をしていないところもある。 ・ 開催場所がない(近隣だと噂の心配があり、遠方だと移動手段がない)。 ・ 認知症カフェの周知が進んでいない。認知度が低い。 ・ 「認知症カフェ」の理解に至っていない。
---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民や地域活動をする人に、何が必要か伝えていくことが必要。 ・ 市民も専門職も認知症の理解を深める場を必要としていても、どのように参加・協力してよいかわからない状態。 ・ 各地域における認知症の理解や地域差など、実情が把握できていない。 ・ 十分周知されていない。 ・ 歩いて行ける場所にあるとよい。 ・ 福祉センター休館日に開催しているが、休館のため一般参加者が気軽に立ち寄ることが難しい。 ・ 医療・介護関係施設・事業所だけでなく、飲食店等の参入により、地域全体が居心地の良い場になると考える。 ・ コロナ禍に開催することへの理解が得られにくい。 ・ コロナ禍で啓発の機会がほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症についての理解の場として活用できていない。 ・ 本人・家族が安心して過ごせる場、正しい理解が進む普及啓発の場になるよう、地域への働きかけを継続していく。 ・ 近隣住民に、認知症カフェを開催していることや、カフェがどのようなものか知ってもらう必要がある。 ・ 身近な人が認知症になった時、どのように対応や支援ができるかの理解と周知を図る。 ・ 市民も専門職も認知症の理解を深める場を必要としていても、どのように参加・協力してよいかわからない状態。 ・ 認知症への興味はあるが、「カフェ運営」には組織的な支援が必要。 ・ 理解・周知のためには魅力あるカフェの効果的な活用方法の検討が課題。 ・ 介護予防主体の内容に偏りがち。 ・ 認知症カフェとサロンの違いが理解されていない。 ・ 家族がコロナ禍での参加に難色を示している。 ・ コロナ禍で認知症サポーター講座等の開催も難しく、地域の理解を求めることが難しい。
--	--

④ その他

<p>【市町村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症カフェの位置づけが難しい。 ・ 委託のため、運営主体と現状や課題について共有できていない。 ・ 感染対策を行う中では、気軽に立ち寄れる場所になりにくい。 ・ zoom 交流会を検討したが、参加者に「直接会って話したい」という意向が多く、実現しなかった。 	<p>【認知症地域支援推進員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームオレンジとどのように連携させていくかが課題。 ・ 活用できる社会資源が限られている。 ・ 若年性認知症の方への支援。 ・ 定期的なサロンの実施を行って行けるよう体制を整えていく。 ・ 常設の喫茶店では、イベント等のある「非日常的な参加」ではなく、居場所として生活の一部になるよう支援が必要。 ・ 本人・家族以外の方には、認知症が身近なものと感じにくい状況。 ・ 運営主体と現状や課題について共有できていない。 ・ 支援者が、カフェという自由な状況を作り出すほどに ICT スキルを習得するには時間が必要。 ・ 当事者がオンライン環境を整えるための支援がない。
--	---

8 認知症カフェに対して必要と考える支援(自由記述)

主な意見

【市町村】	【認知症地域支援推進員】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域主体で実施できるようニーズの拾い上げ、運営面での調整・支援（会場、ボランティア、周知方法等）。 ・ 自主的に継続開催できるよう相談や情報提供。 ・ 住民が自立して運営できるよう、相談できる関係性の構築。 ・ 相談窓口や専門職への具体的な活動紹介等の周知。 ・ 運営団体ごとの特色・思いに沿った支援。 ・ カフェごとに異なるニーズに対応できるよう情報提供を行う。 ・ 運営の困りごとや相談に対するサポート体制の構築。 ・ 運営者に、本人や家族が利用しやすい環境を提供するという認識を継続して持つてもらうために定期的なかかわりが必要。 ・ 診断後のファーストアクションを起こす先としての認知症カフェの役割や、診断直後の方をカフェにつないでいく仕組みについて、認知症疾患医療センターをはじめ関係機関との共通認識を図る。 ・ 相談ができる専門職等を配置し、本人・家族が時間を気にせず話をできる場を提供できるようにすること。その周知。 ・ 気軽に参加できる雰囲気づくり。 ・ 本人の思いやニーズのすくい上げ。 ・ 認知症の方への対応方法等、知識の普及。 ・ より一層の周知。普及啓発。 ・ 周知、理解促進により参加者の確保。 ・ 地域の理解や協力が得られるような働きかけ。 ・ 専門職の確保。 ・ ボランティアの育成。 ・ カフェの増設、開設支援。 ・ カフェ開設や担い手の発掘。 ・ 新規立ち上げを検討している人が、気軽に運営のノウハウを学べる機会の提供。 ・ 運営者の学習及び情報交換の開催。 ・ カフェ同士の交流の場を設け、課題共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民が自立して運営できるよう、相談できる関係性の構築。 ・ 運営に行き詰まった時の相談機関。 ・ 継続運営のため、運営ミーティングなどで方向性を確認する。 ・ 運営者がカフェの役割を理解したうえで開催できるよう支援。 ・ 相談窓口や専門職への具体的な活動紹介等の周知。 ・ チームオレンジの一員として活躍できる仕組みづくり。 ・ 認知症初期の人への社会資源となるよう医療機関への周知を含めた支援。 ・ 本人・家族・地域住民に PR・周知を図る。 ・ カフェが身近な存在であることを発信。飲食店、ドラッグストア、ショッピングセンターの公共空間等でオープンできるとよい。 ・ 店舗等のスペースの衛生管理（失禁への対応等）を具体的に考える。 ・ 気軽に参加できるような雰囲気、関係づくり。 ・ 行ってみたいと思った人が行けるような支援。 ・ 参加する楽しみがあり通う習慣になる仕組みづくり。 ・ 行政主体ではなく地域の人が運営していけるような支援。 ・ 運営スタッフ不足のカフェへの人的支援。 ・ 運営への協力者を増やすこと。 ・ スタッフの育成、新規スタッフの発掘。 ・ 専門職の育成。参加促進。 ・ 本人・家族と一緒にカフェに参加・活動する専門職等の養成支援。 ・ ボランティアの確保。 ・ サポートする側の知識向上。 ・ カフェ開設や担い手の発掘。 ・ 立ち上げ支援。 ・ 運営者同士の情報共有や相談、交流できる場の設置。 ・ 地域で認知症カフェのあり方を話し合うよ

<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的な継続開催への支援。 ・ 継続運営できる人の確保と運営に関する資金的支援。 ・ 必要物品の購入補助。 ・ 財政面での支援。 ・ 場所の提供。 ・ 週末の開催。 ・ 移動手段の確保。 ・ 地域における認知症支援を行う事業所への加算など、事業所へのインセンティブがあるとよい。 ・ コロナ禍での開催方法の検討。 ・ コロナ禍での開催の工夫に関する情報提供。 ・ スタッフのモチベーションを維持するための対応。 ・ コロナの感染状況に応じて、消耗品費等の助成支援。 ・ 休止・再開基準の取り決め。 ・ コロナ禍で開催できないところもあり、参加希望者へ手紙やインターネット等で情報発信できるような支援が必要。 ・ 参加者のオンライン対応は難しく、換気設備等への補助が必要。 ・ オンライン開催する際のアドバイス。 ・ オンライン参加のための支援。 ・ zoom など、直接の対面ではない新しい生活様式に合わせた開催方法も模索していく必要がある。オンラインでも「つながる」方法を検討できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> うな場を定期的に設ける必要がある。 ・ 他市町村における運営やイベントに関する情報提供。 ・ 安定的な継続開催への支援。 ・ 立ち上げや継続運営に対する資金調達の方法や支援。 ・ 送迎支援。交通手段の確立。 ・ 歩いて行ける場所で開催できるようにしたい。 ・ 本人が参加できる仕組みづくり。 ・ 本人に対しては日時の確認等、参加するための支援が必要。 ・ 認知症地域支援推進員、他関係機関との情報共有、連携強化。 ・ 担当者が代わっても、継続開催できるよう、要綱の整備や、創意工夫・支援体制等を書面で引き継いでいく。 ・ 認知症地域支援推進員の認知度の向上。 ・ コロナ禍においても、運営者がカフェを継続したいとモチベーションを維持できるような支援が必要。 ・ 対面で開催できない場合にも、参加者やボランティアがつながりを感じられるような支援（通信の発行等）。 ・ コロナ禍での開催の工夫に関する情報提供。 ・ コロナ禍の実例紹介などのオンライン研修。 ・ コロナ禍における感染予防対策、緊急時の対応策の事前準備。 ・ オンライン開催、ハイブリッド開催への支援。 ・ コロナ禍でも開催しているカフェの案内。 ・ 会場の変更（出張）などにより継続し、それを周知する。 ・ ボランティアで福祉関係に関わる場合には、ワクチンを優先的に摂取できる等の対応ができるとよい。
---	--

IV. 認知症カフェ調査の結果

1 認知症カフェの基本情報

(1)-1 所在地

所在地（市町村別内訳）は、下表のとおり。

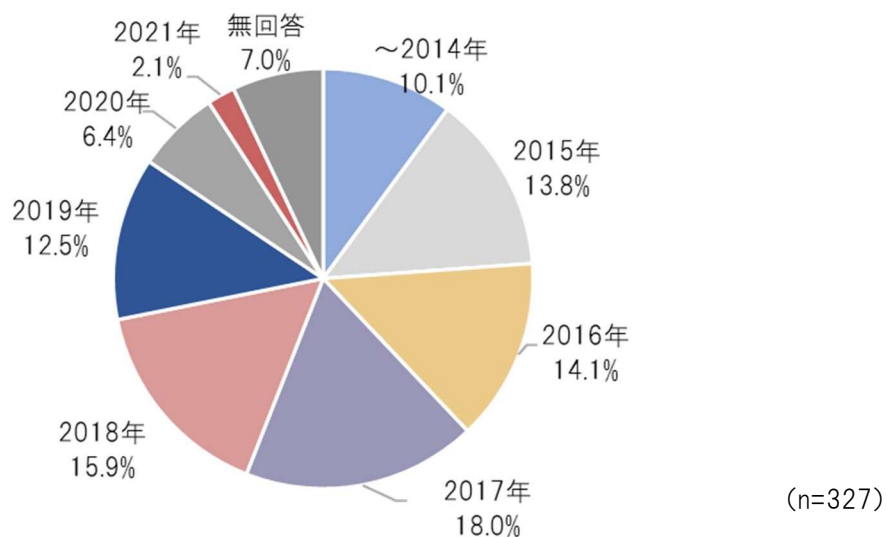
※ 本調査への回答のあった認知症カフェの所在地。

市町村名	回答数	市町村名	回答数	市町村名	回答数
名古屋市	132	江南市	3	みよし市	3
豊橋市	6	小牧市	11	あま市	10
岡崎市	18	新城市	5	長久手市	3
一宮市	9	東海市	3	東郷町	1
瀬戸市	5	大府市	6	豊山町	1
半田市	3	知多市	6	扶桑町	1
春日井市	5	知立市	1	大治町	1
豊川市	11	尾張旭市	4	蟹江町	1
津島市	3	高浜市	2	阿久比町	2
碧南市	3	岩倉市	1	東浦町	0
刈谷市	7	豊明市	6	南知多町	1
豊田市	10	日進市	4	美浜町	2
安城市	6	田原市	2	武豊町	1
西尾市	6	愛西市	3	幸田町	3
蒲郡市	3	清須市	3	設楽町	1
犬山市	2	北名古屋市	2		
常滑市	3	弥富市	2	計	327

(1)-2 開設年

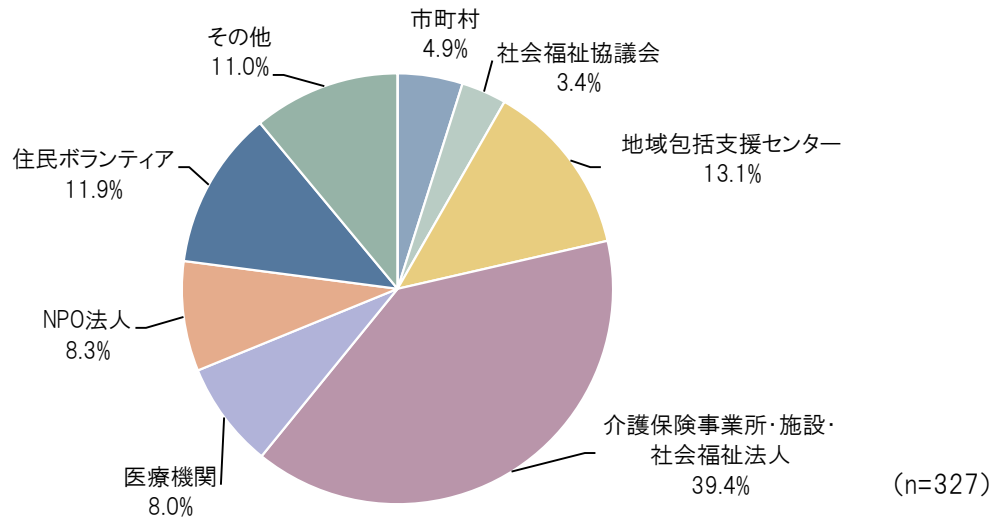
「2017年」が18.0%、次いで「2018年」が15.9%であった。

※ 設置主体の法人や事業所の開設年が回答されている可能性があることに留意が必要。



(2) 開設主体

「介護保険事業所・施設・社会福祉法人」が最も多く 39.4%、次いで「地域包括支援センター」が 13.1%、「住民ボランティア」が 11.9%であった。

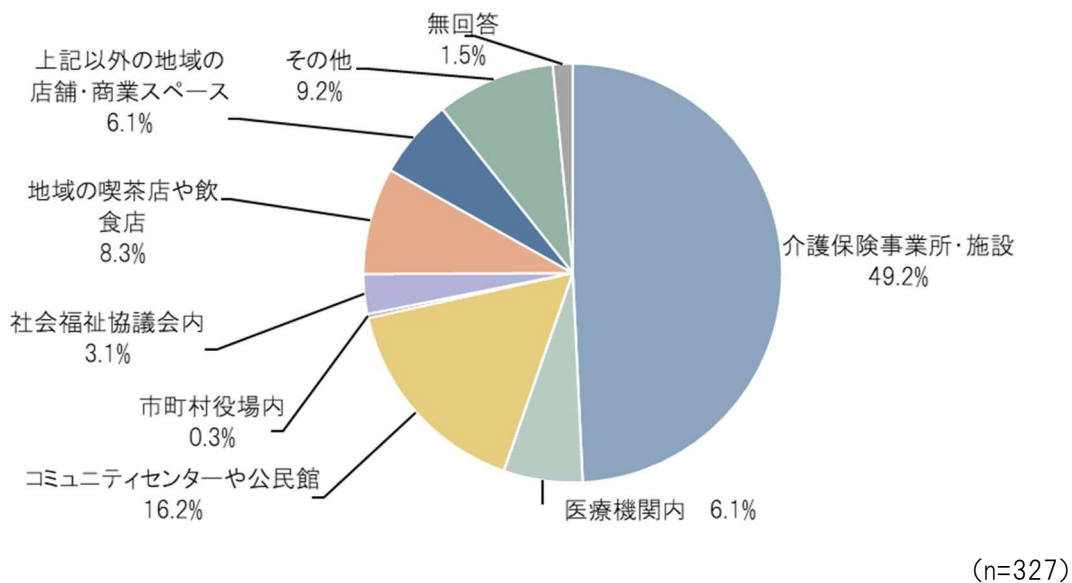


その他の例

株式会社、薬局、託児施設、飲食店、複数の主体が持ち回りで開催など

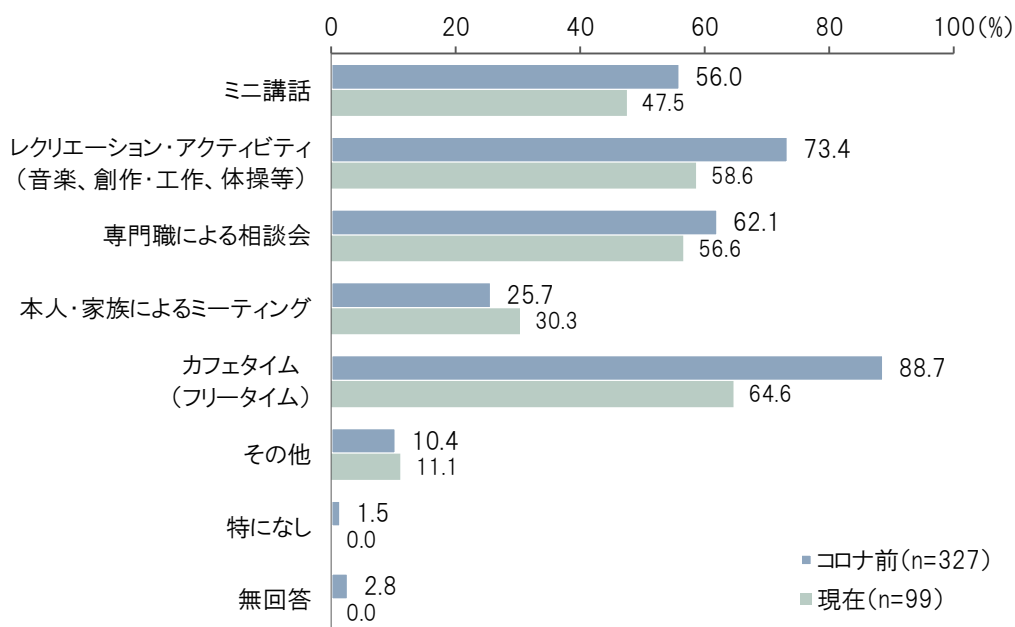
(3) 開催場所 (n=327)

「介護保険事業所・施設」が 49.2%、次いで「コミュニティセンターや公民館」が 16.2%であった。



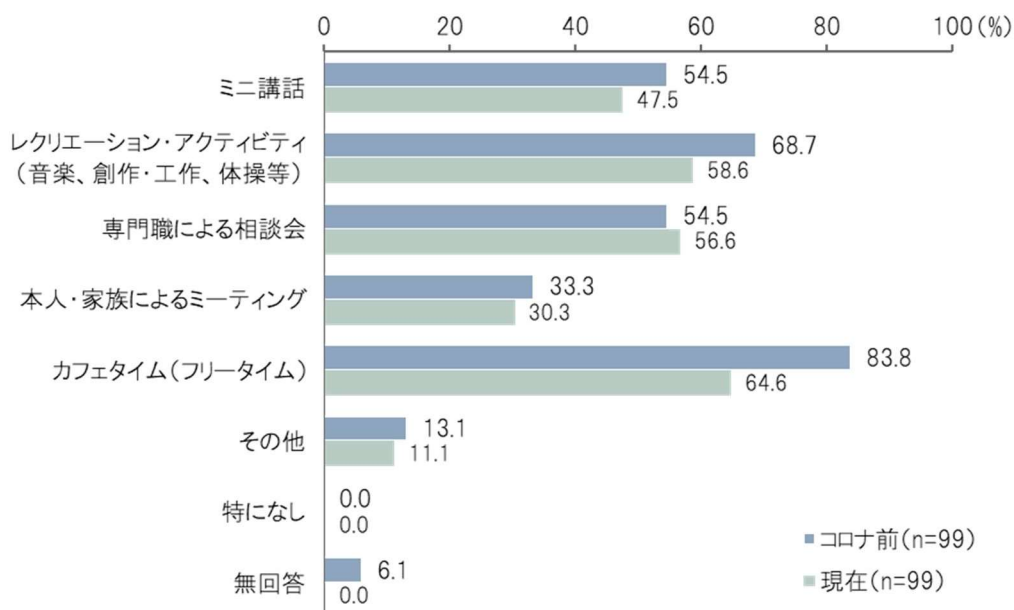
(4) 主なプログラム

現在開催しているカフェをみると、コロナ前の全体状況と比べて、多くのプログラムで実施しているカフェの割合が少なかった。特に「カフェタイム」「レクリエーション・アクティビティ」を実施割合が少なかった。一方で「本人・家族によるミーティング」の実施割合は多かった。



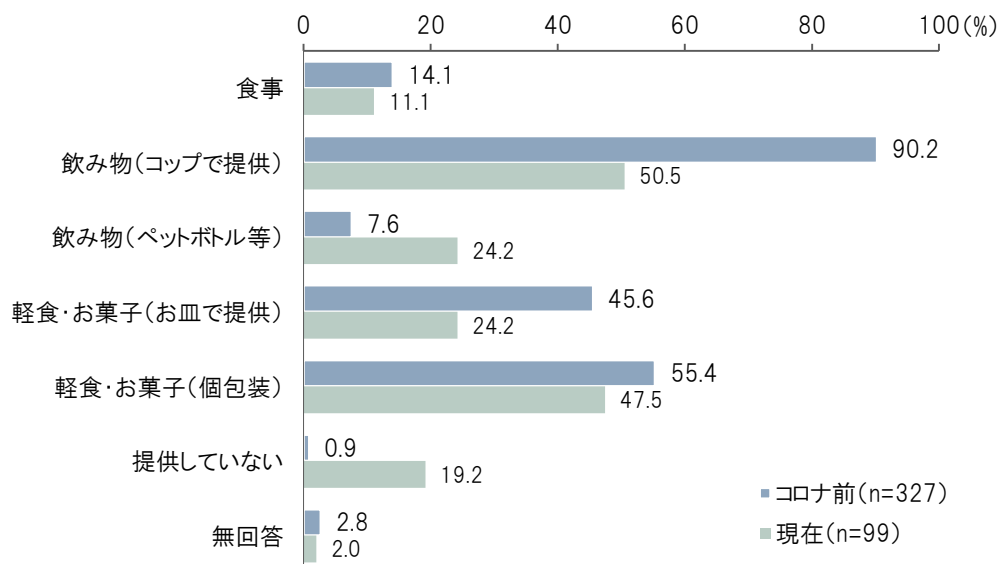
【現在開催しているカフェ (n=99) の推移】

現在開催しているカフェのコロナ前後の推移をみると、「カフェタイム」「レクリエーション・アクティビティ」「ミニ講話」が減少し、「専門職による相談会」「本人・家族によるミーティング」は、ほぼ変わらなかった。



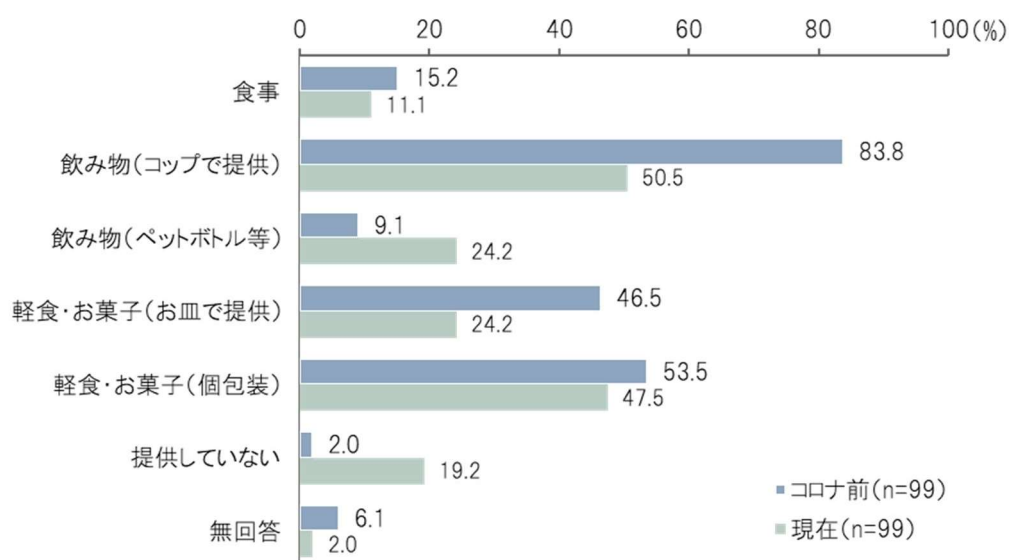
(5) 飲食物の提供

現在開催しているカフェをみると、コロナ前の全体状況と比べて、「軽食・お菓子」を提供するカフェの割合は少なかった。また、「飲み物」については、「ペットボトル等」での提供が多かった。



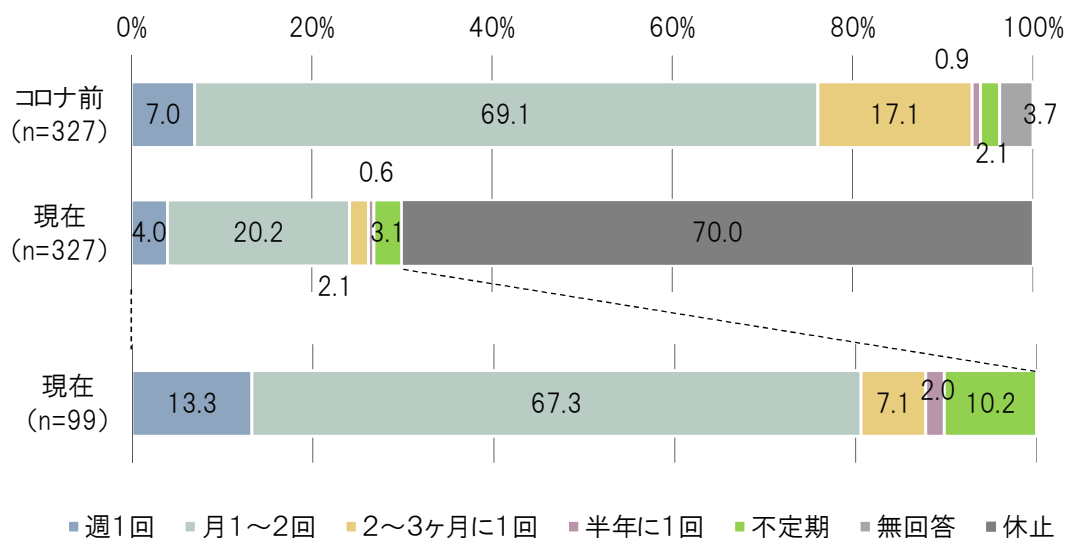
【現在開催しているカフェ (n=99) の推移】

現在開催しているカフェのコロナ前後の推移をみると、「飲み物 (コップで提供)」「軽食・お菓子 (お皿で提供)」が減少し、「提供していない」が増加した。



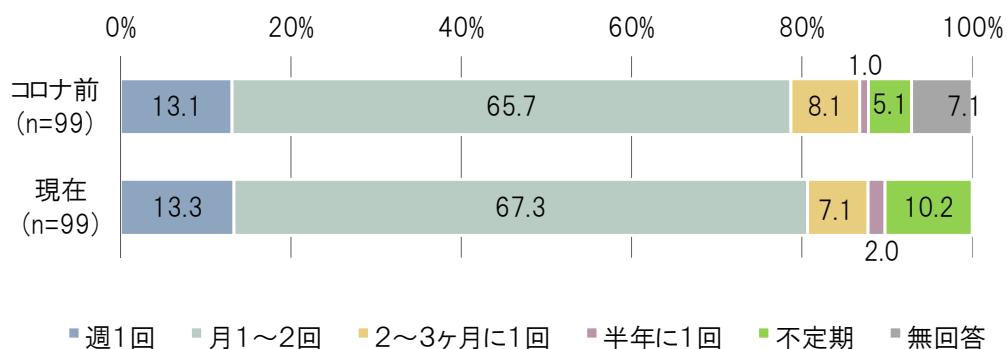
(6) 開催頻度

現在開催しているカフェをみると、コロナ前の全体状況と比べて、「週1回」、「不定期」で開催しているカフェの割合が多かった。一方で、「月1～2回」、「2～3ヶ月に1回」の割合は少なかった。



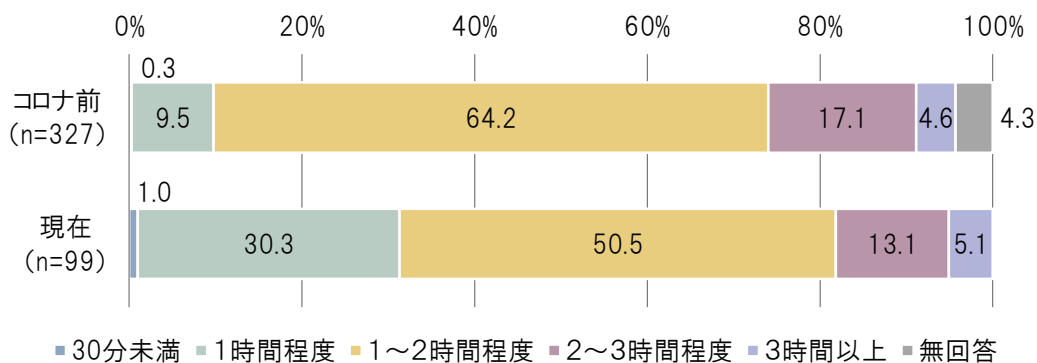
【現在開催しているカフェの推移】

現在開催しているカフェのコロナ前後の推移をみると、コロナ前と現在で、開催頻度に大きな差はなかった。



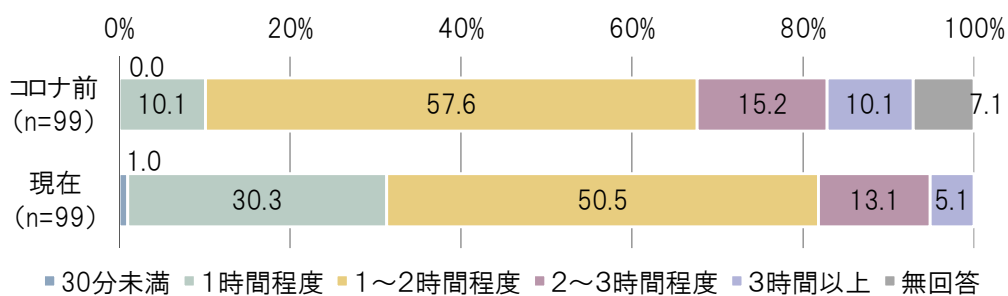
(7) 1回の開催時間

現在開催しているカフェをみると、コロナ前の全体状況と比べて、「1時間程度」で開催しているカフェの割合が多かった。一方で、「1～2時間程度」、「2～3時間程度」の割合は少なかった。



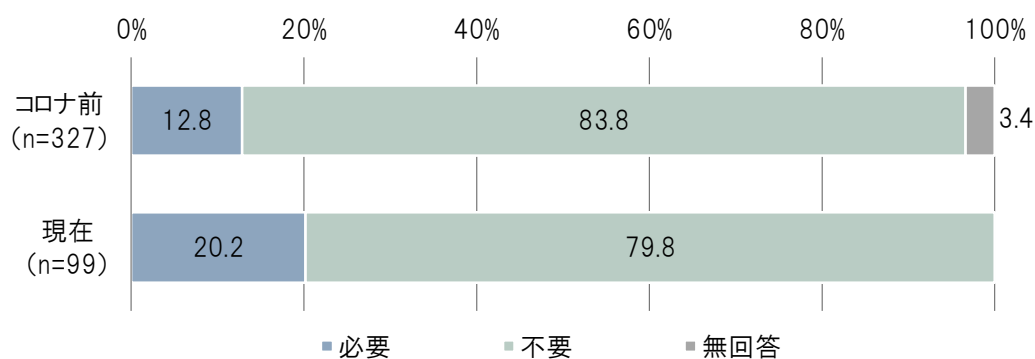
【現在開催しているカフェの推移】

現在開催しているカフェのコロナ前後の推移をみると、コロナ前と現在で、「1時間程度」の割合が増加し、「2～3時間程度」の割合が減少した。



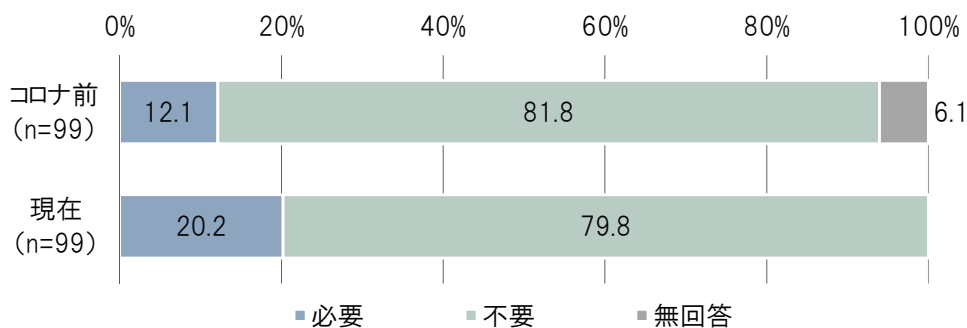
(8) 参加事前申し込み

現在開催しているカフェをみると、コロナ前の全体状況と比べて、事前参加申込が「必要」なカフェの割合がやや多かった。



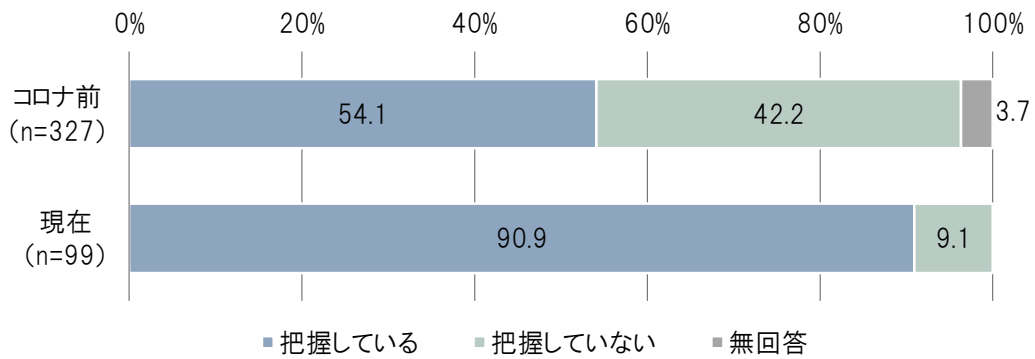
【現在開催しているカフェの推移】

現在開催しているカフェのコロナ前後の推移をみると、事前参加申込が「必要」なカフェが増加した。



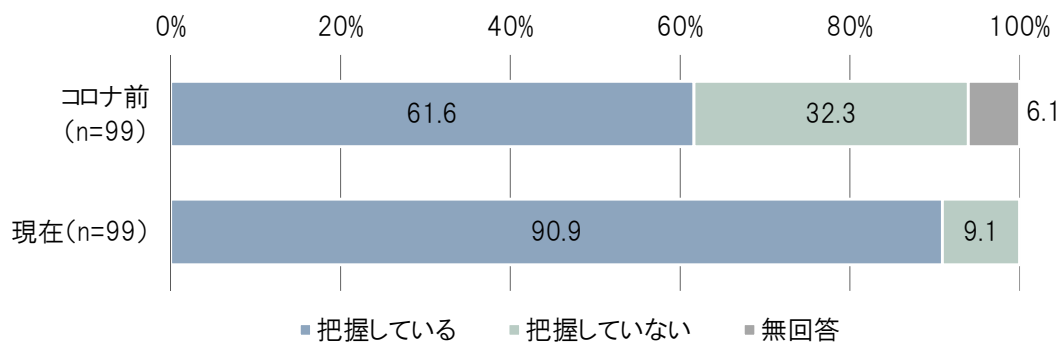
(9) 参加者の連絡先の把握

現在開催しているカフェをみると、コロナ前の全体状況と比べて、参加者の連絡先を「把握している」カフェの割合が約3割多かった。



【現在開催しているカフェの推移】

現在開催しているカフェのコロナ前後の推移をみると、参加者の連絡先を「把握している」カフェが増加した。



(10) 1回あたりの平均的な参加者数

全体として参加者は減少した。特にもともと参加人数の多かった「地域住民」の減少量が大きい。

	平均	
	コロナ前 (n=327)	現在 (n=99)
① 認知症の本人（高齢者）	3.47 人	2.68 人
② 若年性認知症の人	0.11 人	0.14 人
③ 認知症の人の家族	2.10 人	1.88 人
④ 地域住民	8.18 人	5.96 人
⑤ 専門職	1.74 人	1.49 人
⑥ その他	1.27 人	1.74 人

【現在開催しているカフェの推移】

現在開催しているカフェのコロナ前後の推移をみると、「地域住民」「認知症の人の家族」「認知症の本人（高齢者）」で減少している。

	平均	
	コロナ前 (n=99)	現在 (n=99)
① 認知症の本人（高齢者）	3.40 人	2.68 人
② 若年性認知症の人	0.12 人	0.14 人
③ 認知症の人の家族	2.50 人	1.88 人
④ 地域住民	8.65 人	5.96 人
⑤ 専門職	1.56 人	1.49 人
⑥ その他	1.93 人	1.74 人

(11) -1 運営スタッフの数、属性

1回あたりの平均スタッフ数はコロナ前で 5.51 人、現在は 5.26 人と微減であった。

	平均	
	コロナ前 (n=297)	現在 (n=88)
1回あたりの平均的なスタッフ数	5.51 人	5.26 人

※スタッフ数が「0」の回答は、無効として集計から除外した。

【現在開催しているカフェの推移】

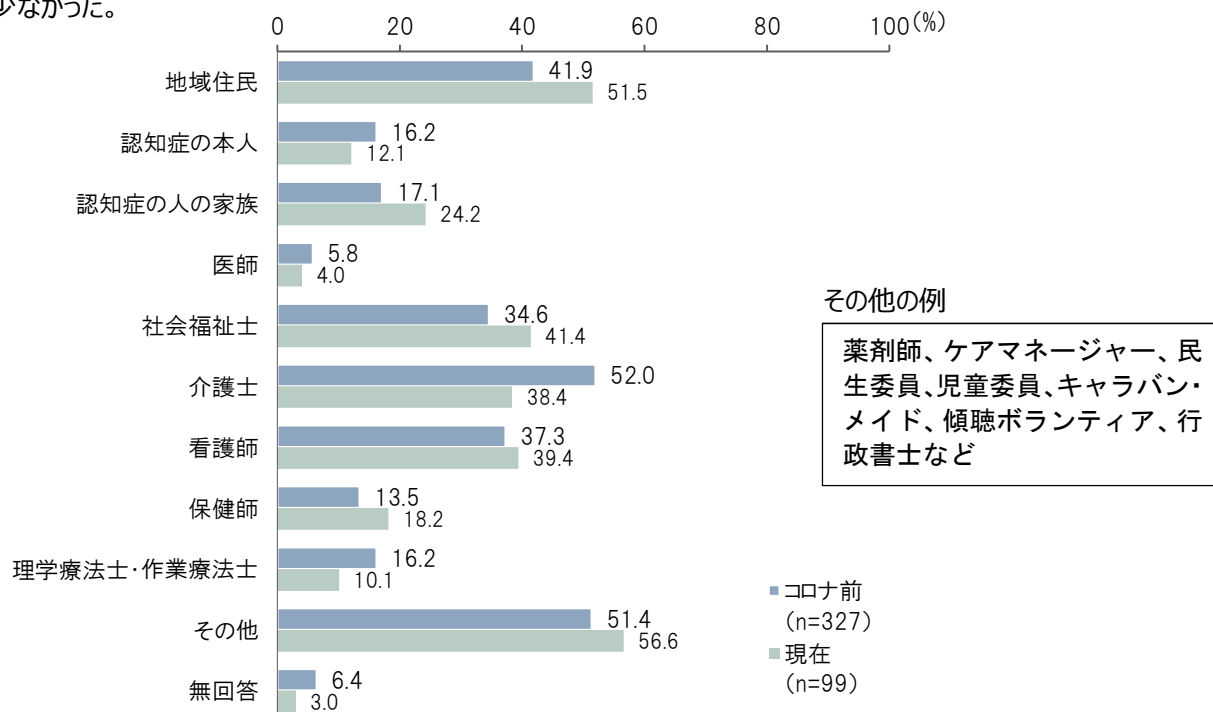
現在開催しているカフェのコロナ前後の推移をみると、微減であった。

	平均	
	コロナ前 (n=84)	現在 (n=88)
1回あたりの平均的なスタッフ数	5.75 人	5.26 人

※スタッフ数が「0」の回答は、無効として集計から除外した。

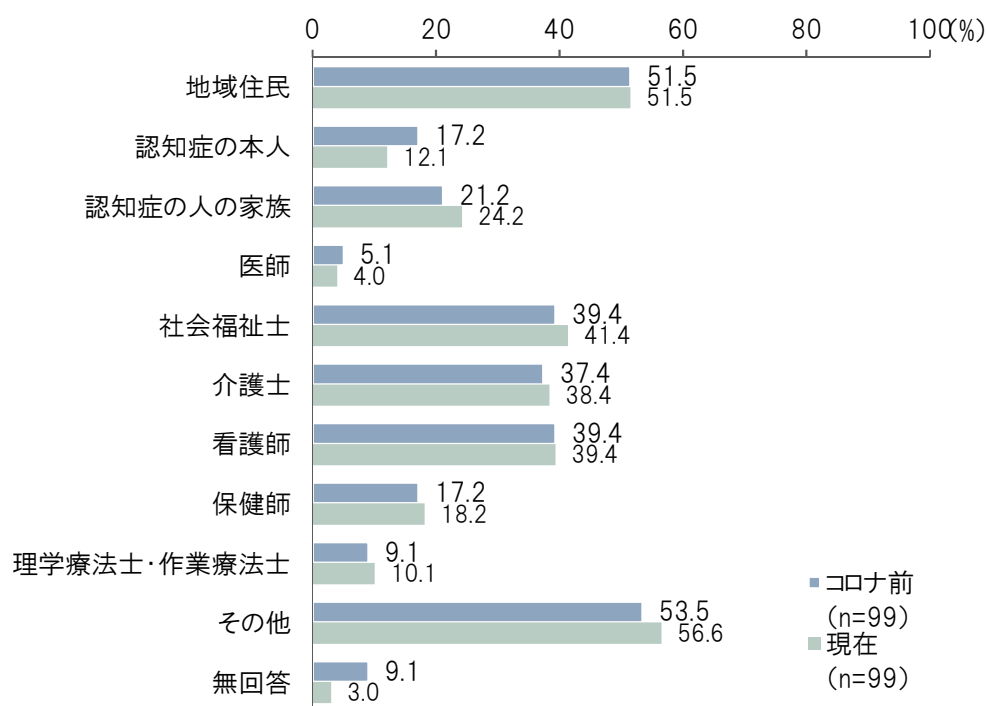
(11)-2 運営スタッフの属性

現在開催しているカフェをみると、コロナ前の全体状況と比べて、「地域住民」、「認知症の人の家族」が参加しているカフェの割合がやや多かった。専門職は殆ど変化はないが、「介護士」が参加しているカフェの割合が少なかった。



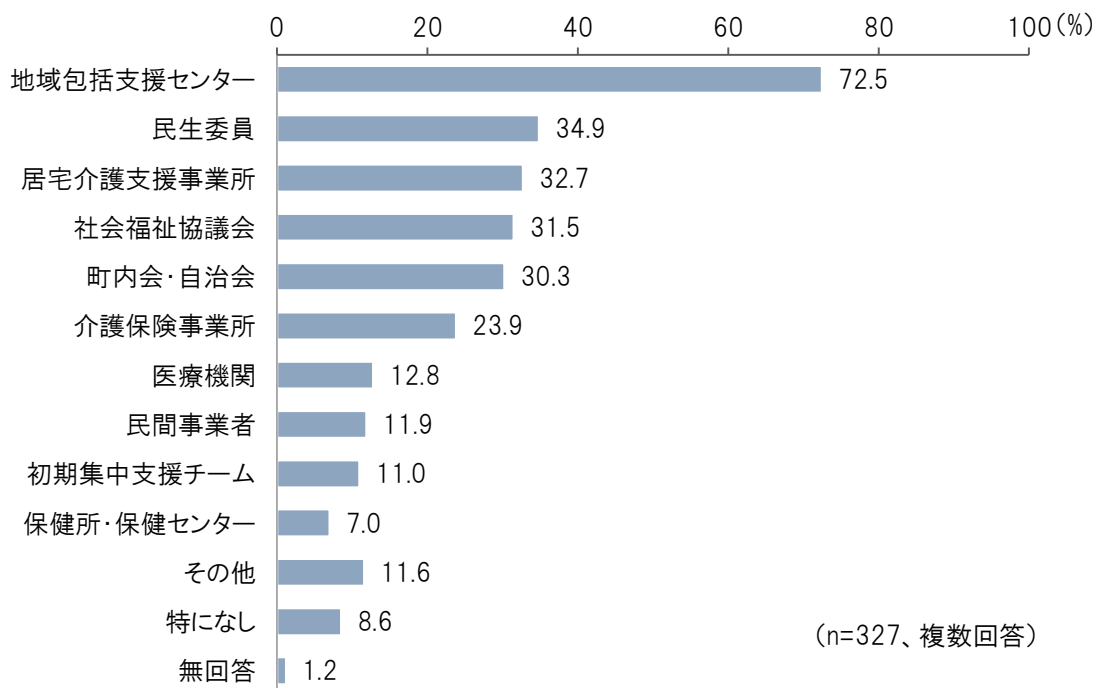
【現在開催しているカフェの推移】

現在開催しているカフェのコロナ前後の推移をみると、大きな変化はなかった。



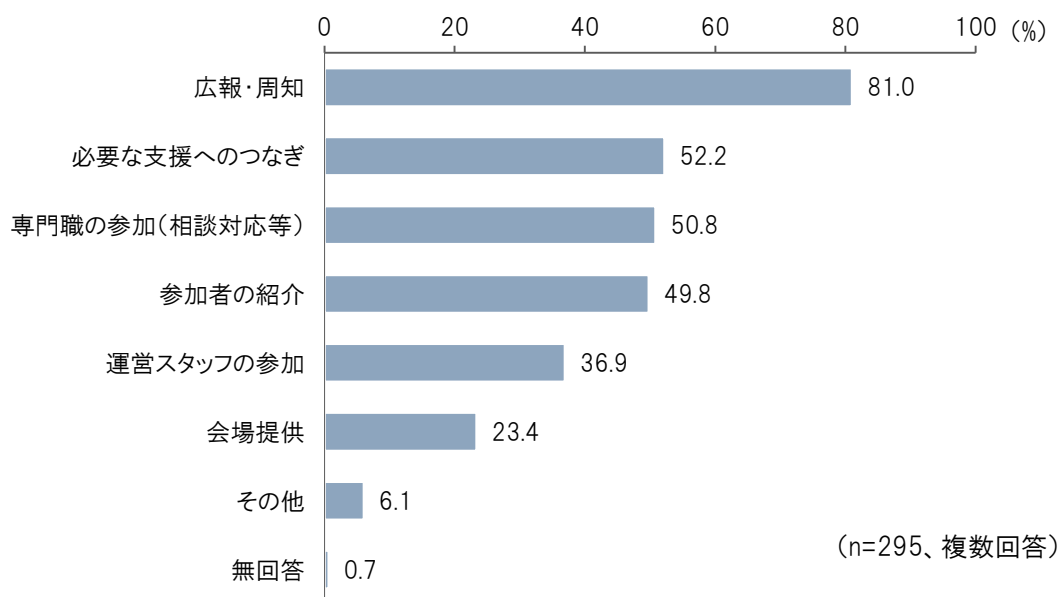
(12) 他機関との連携

「地域包括支援センター」が最も多く 72.5%、次いで「民生委員」「居宅介護支援事業」「社会福祉協議会」「町内会・自治体」が 30～35%であった。



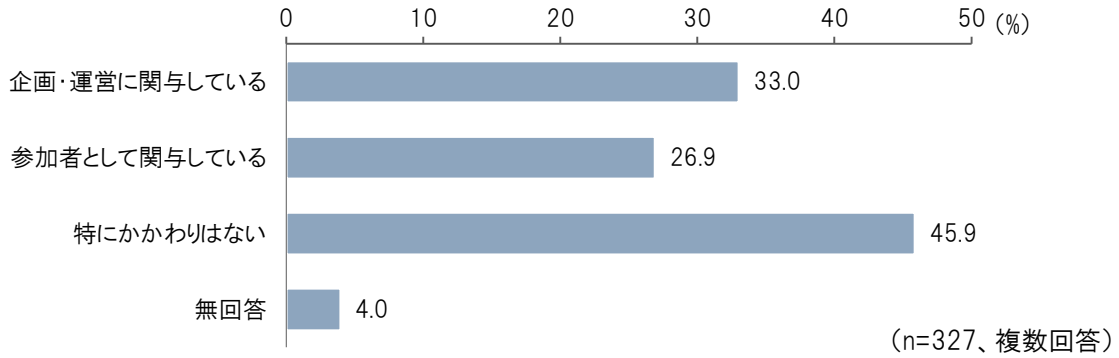
(13) 他機関との連携内容

「広報・周知」が最も多く 81.0%、次いで「必要な支援へのつなぎ」が 52.2%であった。



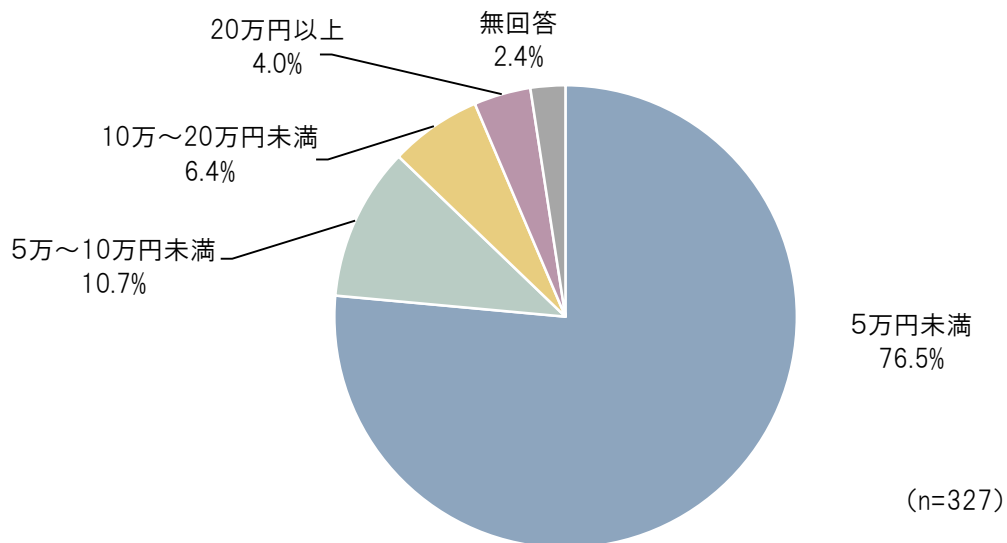
(14) 認知症地域支援推進員のかかわり

「企画・運営に関与している」が33.0%、「参加者として関与している」が26.9%、「特にかかわりはない」が45.9%であった。



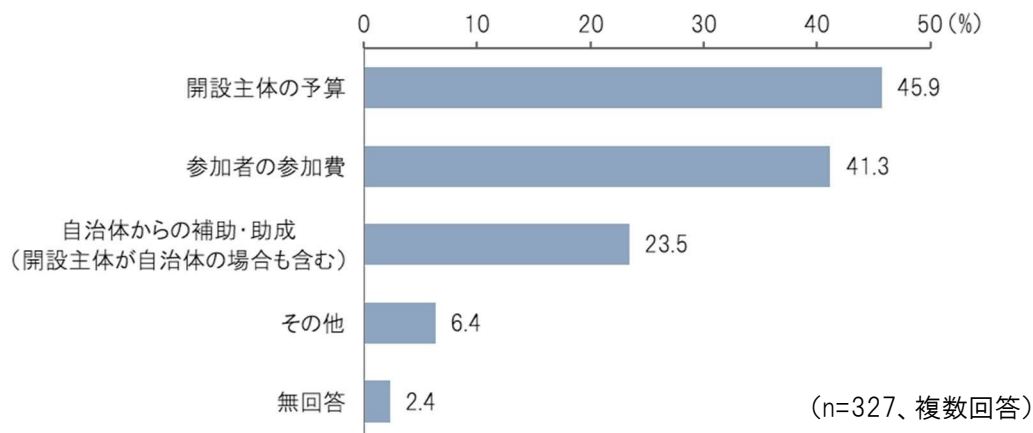
(15) 運営費(年間)

「5万円未満」が76.5%で最も多く、次いで「5～10万円未満」が10.7%であった。



(16) 運営費の主な財源

「開設主体の予算」が45.9%で最も多く、次いで「参加者の参加費」が41.3%であった。



(17) カフェ運営における課題や必要な支援(自由記述)

主な意見

周知・参加者の確保

- ・ 認知症の方本人の積極的な参加が難しい。
- ・ 介護サービスを必要としている地域の方へのカフェや事業所の情報提供をどのように広報すれば周知されるかが課題。
- ・ 立ち上げて間もない為、周知、運営体制の強化など課題山積。
- ・ 現在関係機関を利用している方の参加になっている。地域住人の認知度は低いように思う。地域への広報が必要。
- ・ 認知症カフェの認識が不十分、何かわからないと言われる。認知症の方は家族がいないと参加が難しい。送迎が問題。
- ・ 地域における支援を必要としている認知症の方、介護にあたるご家族への情報提供が充分でないこともあり参加につがっていない。
- ・ 元々施設内利用者様主体となっていた為、近隣へのカフェの周知が課題。
- ・ 認知症のご本人ご家族様に来ていただけていない。
- ・ 認知症の方や家族の方が気軽に立ち寄れる場所として毎日開所しています。なかなか足を運んでいただけないのが現状です。専門の方のアドバイスと連携が必要と思われます。
- ・ 市民では啓発力にも限界があるため、行政関係者の協力を得たい。
- ・ また、必要な方にカフェの情報が届くよう、専門職に知ってもらうための取り組みが必要。

スタッフ・会場

- ・ 運営スタッフが包括支援センターの職員ばかりであるため、認知症サポーターの方や他機関の方も入れた運営ができるようにしていくことが課題と考えている。
- ・ 開催場所が狭くて、密になり病院内での部屋の確保が難しい。
- ・ 運営の為にスタッフ不足（コロナ後は未開催）。

- 施設職員の担当制では通常業務の中で難しい時がある。ボランティア等の呼びかけも実施しているが集まらない状況があったり参加者全員がセルフサービスで出来るような仕組みに移行する途中でコロナになったりこの先の状況下で不透明なことが多く不安。
- 出来れば専門スタッフを年に2回程度呼びたい。
- 現在、施設内で行っているが介護事業所ということで敷居が高く、なかなか気軽に入ってもらえない事があり、今後は出張など地域の喫茶店などと協力して実施したいと考えている。
- サポーターが主体となって運営できるようにしたいが、サポーターも高齢者が多く、なかなか思うような体制が作れない。

実施内容

- 一人でこられない人の送迎支援。
- 参加者に楽しんで貰える様にプログラム作成する事が課題です。
- プログラムが似た内容になりがちなので、マンネリ化しない様に工夫しています。
- 広報において、各認知症カフェの参加者が地域の他の認知症カフェに参加出来るように支援して頂きたいです。
- 送迎に課題があり、カフェの機能を必要とする方に参加していただけない。
- 「認知症についての勉強」や「楽しんでいただける企画」をおこなっているため、開催時間中だけでなく準備なども含め、マンパワーの不足により一部の職員に負担がかかっている。主体的な参加を促してはいるものの、ともに作り上げていくことが難しい。
- 参加者内に仲良しグループがあり、参加しづらくなってしまっている方がいる。
- 最寄り駅からカフェ会場である当施設までの距離があるため、車がないと参加しにくい。認知症の方本人の参加は誰かの支援がないと困難（家族 etc）。
- 本来の目的である認知症を患う人やそのケアをする家族の出かける場、活躍の場というようにはなかなかならない。
- 地域へのPR方法、参加数に毎回大きな差があり、運営スタッフの方が多いことあり。開設後の定期的な話し合いや客観的なアドバイス等があるといい。
- カフェの充実に向け、民生委員さんや認知症地域支援推進員さんなどと連携をとれたらありがたいです。
- 一般市民のリピーターが多く、サロン化している。
- 認知症本人、家族等の参加が少なく、当事者同士の交流があまりできていない。
- カフェ運営、企画等に関してノウハウの支援が欲しい。
- 認知症ご本人や家族の参加につながらず、交流の場とするのが難しい。参加者のほとんどが元気な高齢者となってしまい、サロンとか介護予防カフェのような雰囲気になってしまったため、当事者が参加しにくい雰囲気になってしまった。
- 本人の参加が少ない また、本人支援ができるように相談窓口になり、支援者も活動できる体制調整中、少しずつ相談も増えている。

費用

- 市からの助成金が限定的であり、人件費への支援が必要です。感染リスク等を考えると再開意欲が削れます。
- カフェ開催時の必要経費（飲食物、ポスター作製）の捻出が問題となっている。
- アクセスしにくい方向けにweb形式の併用も検討したが、使用機器の購入費用の捻出が問題となっている。
- 継続的に実施するには自治体からの補助金が必要。

- 休日出勤扱いによる人件費の支出。
- 継続的な開催には財源が必要。

コロナ対策

- コロナ禍の為、公民館での利用ができず、開催ができていない。
- コロナ禍において高齢者の方の参加が極端に減少していて、広報活動をおこなっているがなかなかコロナ以前に参加者が戻らない。
- 本人同士や家族同士が会える場という意味では、特に初回参加者やまだ馴染めていない人にとって、オンラインというのは、ハードルが高いと感じている。
- 会場が病院や福祉施設等となっているカフェには、やはりコロナ禍での開放開催はリスクも大きく、現状維持でコロナ収束後の再開までしのいでもらうことで精いっぱい。喫茶店や個人宅等を会場としたカフェに対する支援強化をしながら、コロナ閉鎖しているカフェに対しても、再開まで気持ちをつないでもらえるような支援策とカフェ同士のつながりが大切だと思う。
- 会場を提供してくれるサ高住の入居者が参加者の中心なので、サ高住に感染が拡大しないようにするため、開催ができない状況が続いている。WEBでの開催も検討したが、参加者がWEBで参加していただけるかなどの懸念があり、実現には至っていない。
- コロナ禍で支援者が外部活動できない（法人の方針にて外部活動禁止）。また、支援者のカフェに対するモチベーションが下がっている。そのため、後方支援の包括が、活動が途切れないよう支援者との関係性を維持したり、場所を提供くださっている喫茶店店主さんとの関係性を維持しなければならない。
- コロナ禍での開催にあたり地域住民の理解
- コロナ禍で、再開の目途が立っていない。飲食の再開はハードルが高く、どう判断したらいいのか感染対策の面で心配がある。

(18) 認知症のご本人が参加できるように、力を入れていること・工夫していること
(自由記述)

主な意見

- 週4回カフェを実施しているので、参加しやすい様に、毎週水曜日は認知症本人と家族交流会の日としている。若年性の認知症本人と家族の参加が7~8名あり。
- チラシ配布や近隣クリニックとの連携した参加呼びかけ。
- 継続することが大事だと思うので、コツコツと地道に続けます。口コミも大切だと思うので、参加者に気持ち良い環境であることに心がけます。
- 民生委員の協力を得ながら、カフェが周知していただけるよう配慮し、認知症のご本人が継続して参加していただけるよう考えている。
- 地域包括支援センターや主治医、居宅介護支援事業所等の認知症本人や家族等との関係機関と積極的な連携をとり、利用者の紹介や利用者や家族の同意のもと、認知症カフェでのご本人の様子などの情報交換等をおこなっています。
- デイサービスの利用者家族へチラシを配りご本人同席での参加を呼び掛けています。また講座は基本は行わず、認知症のご本人もご家族もホッとできる場所となることを目指しています。
- 特にしておりません。認知症を強調すると参加者が嫌がり、大きく減る可能性があります。

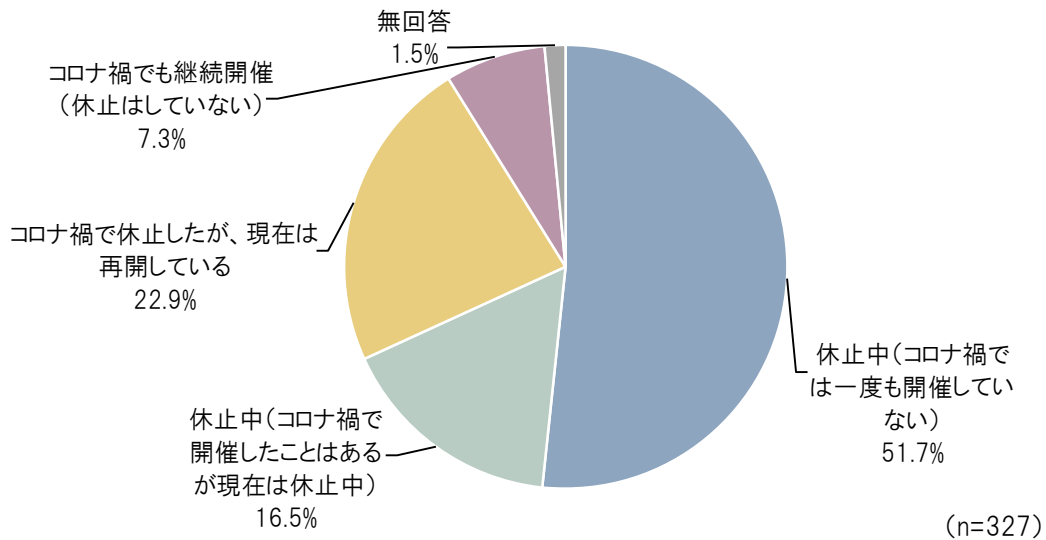
す。

- 民生委員の方に協力していただき、地域の方で気になる方に声をかけていただいている。
- いきいき支援センターや居宅支援事業所との連携を図っている。
- カフェ本来の機能を発揮できるよう、実施後の振り返りを行いブレの無いようにしている。
- 初期集中支援チームや居宅介護支援事業所の方と連携し参加を促したら運営スタッフとして参加してもらっています。
- いつ本人が来ても、不安や不快な思いをせず、過ごせるような雰囲気作り及び運営スタッフ側の正しい理解と共感力。
- 認知症になる前からつながり、関わりを持つために実施している。
- 一人または自力で参加できない方へ、スタッフや NPO 法人さんとタッグを組んで送迎のサービスを実施している。

2 新型コロナウイルス感染症による影響

(19) 現在の開催状況

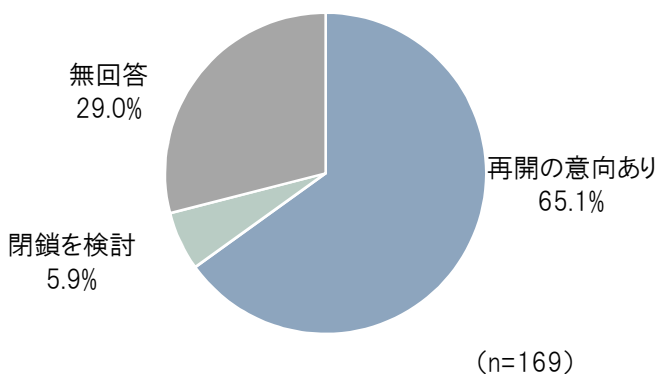
「休止中（コロナ禍では一度も開催していない）」が最も多く 51.7%で、「休止中（コロナ禍で開催したことはあるが現在は休止中）」と合わせると 68.2%であった。一方で、「コロナ禍で休止したが、現在は再開している」と「コロナ禍でも継続開催（休止はしていない）」を合わせると 30.2%であった。



【コロナ禍で一度も開催していないカフェ】

再開意向

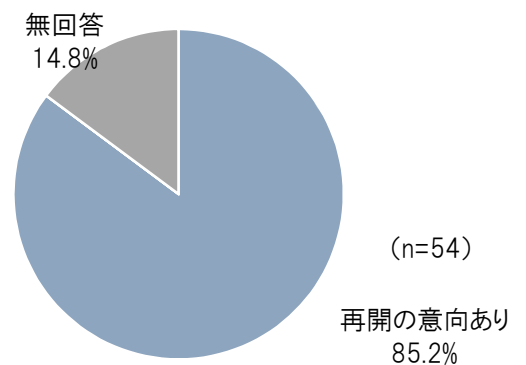
「再開の意向あり」が 65.1%、
「閉鎖を検討」が 5.9%であった。



【コロナ禍で開催したことはあるが現在は休止中のカフェ】

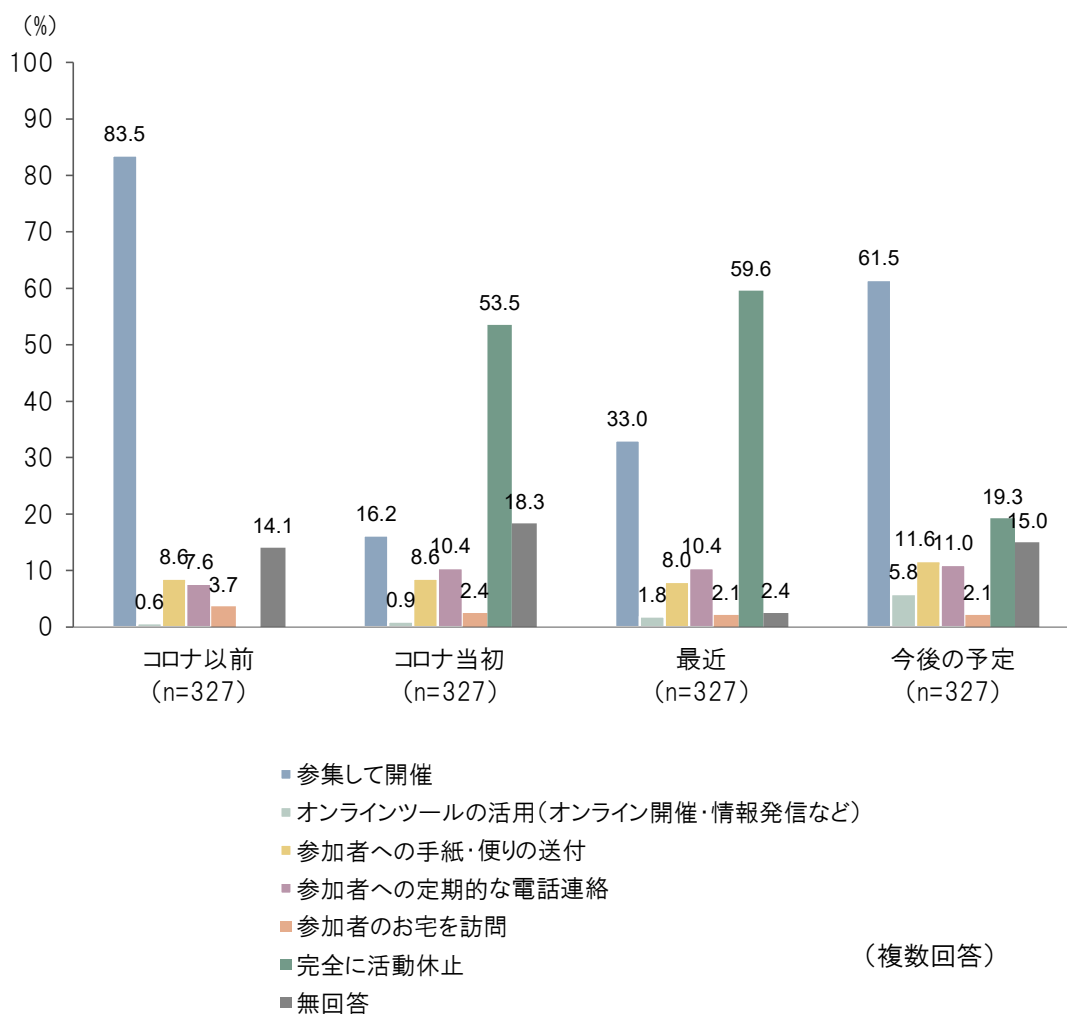
再開意向

「再開の意向あり」が 85.2%であった。



(20) 時期別の活動形式

コロナ以前（2020年2月以前）では、「参集して開催」が8割以上で、「参加者への手紙・便りの送付」や「参加者への定期的な電話連絡」が1割弱であった。一方、コロナ当初（2020年4～5月）では、「参集して開催」は2割以下となり、「完全に活動休止」が5割を超えていた。また、最近（2021年6～7月）では、「参集して開催」が3割に回復してきていることが確認されたほか、僅かではあるが「オンラインツールの活用」の増加が確認された。実施意向も含めた今後の予定では、「参集して開催」が約6割であったほか、「オンラインツールの活用」が微増して5.8%であった。一方、当面は「完全に活動休止」との回答も2割ほどあった。



(21) コロナ禍でも参加者とのつながりを保つために行った工夫(自由記述)

主な意見

継続に向けた工夫

- カフェの休止の時でも、電話で相談に乗ったり、来室された場合は個別に相談対応していた。
- ボランティアなど外部の方の出入りを制限している。日頃のメンバーで、できる範囲のカフェを提供している
- 少人数、時間の短縮、パーティションの設置等を検討中。
- 地域住民等の参加は制限し、施設利用者（入所者・デイ利用者）のみの参加に限定して実施している。入所者とデイ利用者の実施場所は分けている。（デイ利用者はデイルーム内で実施）。

代替手段の活用

- オンラインでできないか検討中。
- LINE を使用して毎週月曜日に配信しています。内容は、音楽療法、運動療法、クイズなどを配しています。クイズの答えは次週に伝えて1週間考えていただきますがヒントを希望される方にはLINEでお伝えします。また、月に1回 予防医学講座をLINEで配信しています。
- コロナ当初は中止していましたが、その後、メールにて定期的に、理学療法士より自宅で出来る体操などのメルマガ的な発信をしておりました。
- 気候の良い時期は開放的に庭での開催やペットボトル（飲み物）とお菓子持参等も1つの方法と考えています。
- 数か月に1度、クイズや簡単にできる体操、認知症関連情報などを載せた手紙を送っている。
- 当初は電話をしていたが、留守番電話になっている方が多く、何度も掛けるのに時間を要してしまうため、手紙だけ続けている。お礼やクイズの答えの確認などで電話連絡をいただいた。
- 手紙や電話のほか、カフェたよりを送り、近況等の返信を頂けるような工夫をした。
- コロナ禍での参加者への電話での聞き取りや脳トレ体操の便りの送付を行った。
- 健康に関する情報、介護予防に役立つ情報等を記載したチラシを作成し、地区の回覧版にいられていただくよう町内会に依頼（チラシは作成中）。

情報収集

- 認知症カフェの集まりに参加して他事業所の取組を参考にしている。
- 定期的開催に向けた話し合いを行い、その結果を病院内、介護保険事務所施設内に掲示し、連絡があった際にはその都度対応を行っている。
- いきいき支援センターと情報共有（全利用者様ではない）。

気づき・課題

- 参加者の連絡先をお聞きしていなかったため、つながりを保つことが出来なかったため、今後は連絡先の確保が必要だと思っております。
- コロナをきっかけに連絡先確認のため「登録カード」作成する。定期参加者に開催の有無と体調確認のため電話連絡をする。電話にてカフェとのつながりを強く感じて下さる方がみえた。

- 当初は、「自由参加で認知症の方もそうでない方もご参加いただき、お名前など一切聞いたりしませんから、・・・」とご説明させていただきましたが、連絡を取る手段が無くなると、参加者さまの連絡先は確認しとけばよかったと考えております。

(22) 対面で開催する際に行っている工夫や配慮(自由記述)

主な意見

環境整備

- 会場を広く使用して距離を保つようにした。
- 会場の変更（換気が出来て、広い会場への変更）
- 参加者のソーシャルディスタンスを考慮した参加人数の工夫、飲食を伴わない対応、手指消毒薬、環境衛生剤、マスク着用の徹底などが必要と考える。
- 検温、手消毒、記名、隣同士の間、食器類の変更、お菓子の提供スタイル、マスクの着用
- コロナになり、隣の部屋も借りて倍の大きさにしました。聞こえにくくなった分、要約筆記の方をお願いしました。しかし、以前のように輪になって話せず、スクリーンを見る形になり、講座みたいな形式になってしまっています。それも、当事者には負担では？との考えに至っています。”
- 検温、マスク着用、アルコール消毒と記録、パーティション設置、換気、座席の間隔をとる。
- 健康チェック表への記入、入口での消毒、換気、座る距離
- 検温、手指消毒、マスクの着用、席を離す、換気、特にプログラム等はせず、ゆっくり静かに過ごしていただく
- 全ての方に手指消毒徹底、販売する野菜を個包装に変更
- ユニットごと時間を区切り入れ替え制。喫茶店だけではなく会議室も利用し密を防ぐ。外部からの参加者との接触を防ぐ。
- 脳トレなどで使用する筆記用具はすべてアルコール消毒を行った。

参加制限

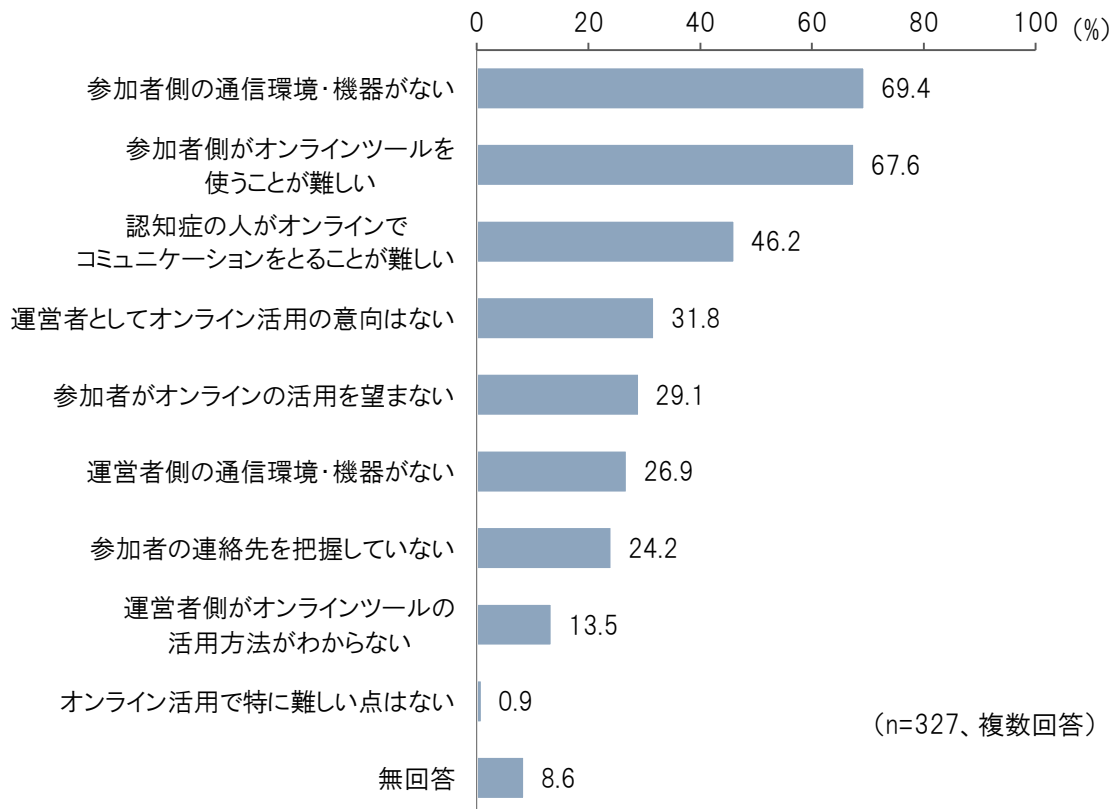
- 躊躇する方へ無理な交渉をしない。
- 参加人数は Max10 名程度にし、医療機関でも使用しているコロナ対策の換気システムを稼働。適宜換気をしています。
- 完全予約制に変更し、参加者の把握（住所、連絡先を受付で記載してもらう）
- 参加者を会員制（リスト化）することで、緊急連絡が取れる形にした。

プログラムの変更

- 内容は体操、ハーモニカやピアノの演奏を聴く。（歌は歌わない）。交流など（本人・家族）を考えています。
- 社交ダンス、カラオケの中止
- 人と物を共有するような製作活動、歌をうたうなどのプログラムの中止。”
- ゲームを取り入れてコミュニケーションを深めています。薬局の為感染症、消毒液、マスク、薬に対して会話をしても違和感がないようです。認知症と関係の深い糖尿病や季節にあった脱水などをテーマに入れている。

(23) オンラインの活用について難しい点

「参加者側の通信環境・機器がない」が最も多く69.4%で、次いで「参加者側がオンラインツールを使うことが難しい」が67.6%、「認知症の人がオンラインでコミュニケーションをとることが難しい」が46.2%であった。



(24) オンライン活用の良かった点【オンラインを活用した方のみ】

「普段は見ない家族や支援者ともつながることができた」が 3 件、「専門職や講師に参加してもらいやすかった」が 2 件、「運営者の準備負担が少なかった」「開催費用が押さえられた」「遠方の人も参加ができた」「体調が不安定な人も参加ができた」がそれぞれ 1 件だった。

(n=8)

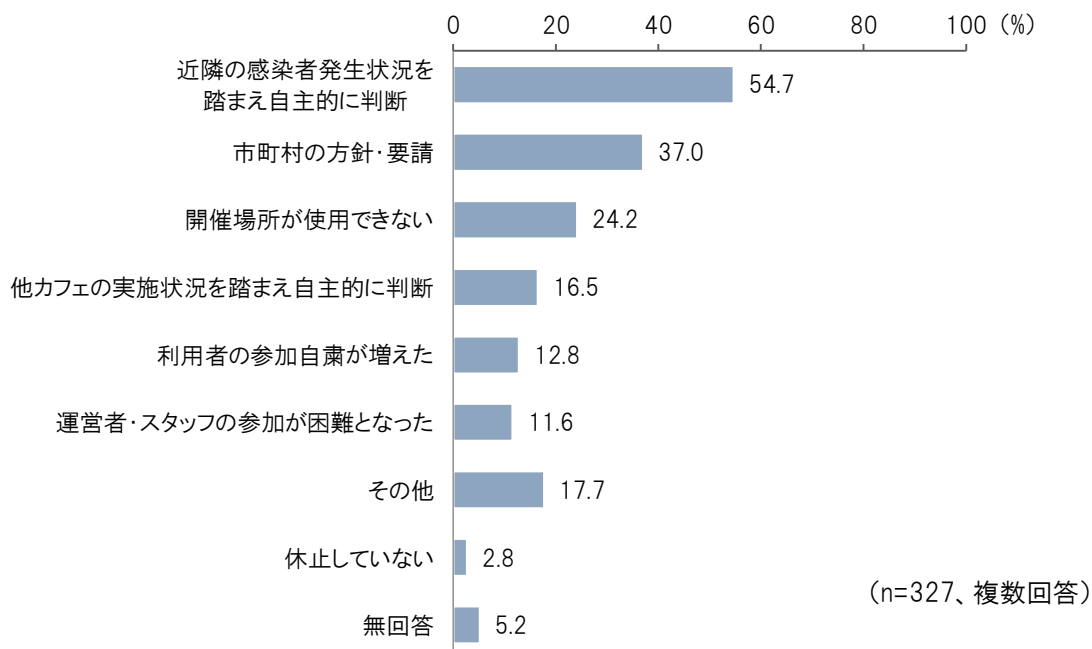
(25) オンラインの活用に適していると感じるプログラム・内容(自由記述)

主な意見

- 講話、体操、音楽が適している。
- 参加形態は、情報発信が一方通行となっていることが多い。
- 認知症の程度にも関係するが、どこまで理解できるのか不明。自由な会話が適していると思われる。
- 認知症相談、講和、体操教室、交流会など
- 自由な会話や体調確認を兼ねたあいさつは顔が見えてよい。
- 1対3で対応する方がいるが、言葉のやり取りのひとつひとつがゆっくりとなるので良い雰囲気になる。1対1で対話するときは個別の相談ができるため、プライバシーを確保しやすい。
- 講話、体操、相談、自由な会話等や、形態として1対1、複数人の同時参加、情報発信のみ等のプログラムなど。

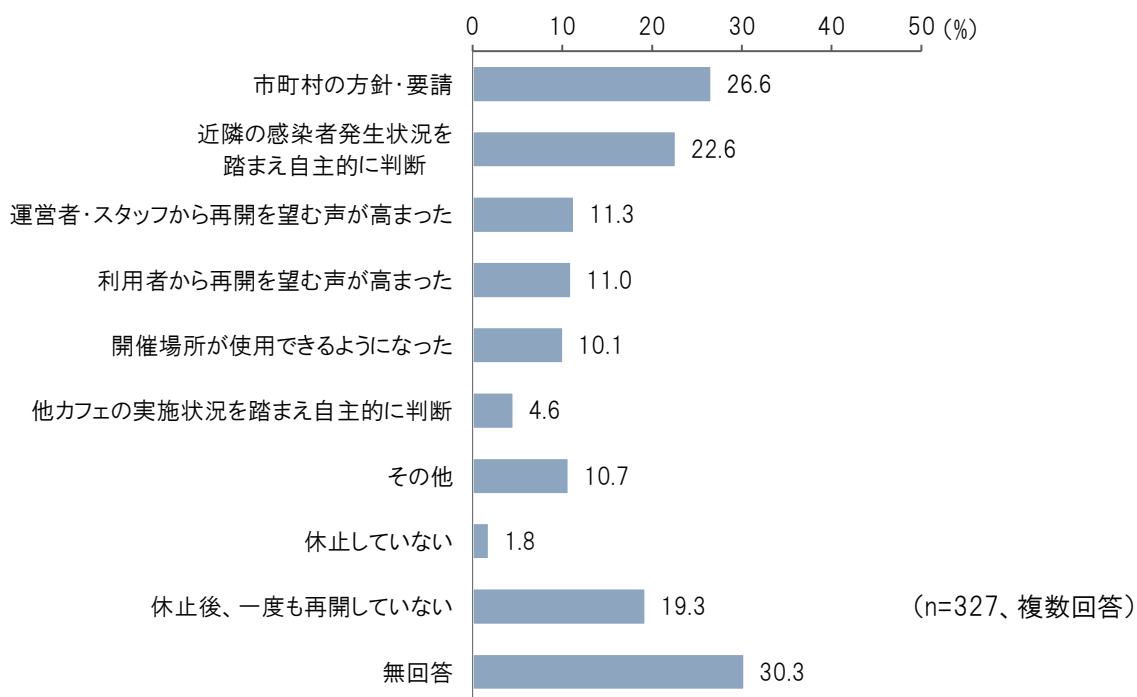
(26)-1 活動休止の判断基準

「近隣の感染者発生状況を踏まえ自主的に判断」が最も多く54.7%、次いで「市町村の方針・要請」が37.0%、「開催場所が使用できない」が24.2%となっている。



(26)-2 再開の判断基準

「市町村の方針・要請」が最も多く26.6%、次いで「近隣の感染者発生状況を踏まえ自主的に判断」が22.6%となっている。



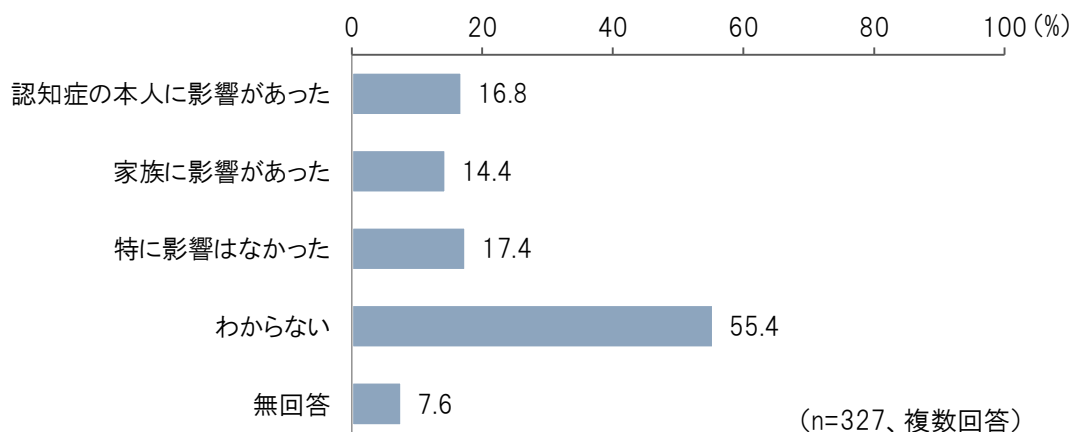
(27) 休止・再開の判断にあたっての相談先や参考にした情報(自由記述)

主な意見

- まん延防止等重点措置、緊急事態宣言
- 市役所、インターネットの情報
- 厚生労働省指針（感染症対応に関する）
- 地域包括支援センター、市、県のHP
- 社会福祉協議会の情報
- コロナ陽性が出たとのニュースで、すぐに休止をした。
- 民間法人の為、会社の意向、上長の判断
- 担当の民生委員と自治会長に確認している。
- 開催場所を貸している介護事業所様のご判断
- 地域包括支援センターや認知症地域支援推進員に相談した。
- 認知症カフェ検討会（2か月に1回オンラインにていきいき主体で開催）
- 町内会でちらしを配布してもらっていたが、町内よりコロナ禍で行う事への不安の声がよせられ、休止を判断した。
- 他カフェの実施状況
- 自主判断にて休止を判断した。
- 地域住民のニーズ

(28) 活動休止・縮小・利用控えによる本人・家族への影響

「認知症の本人に影響があった」が16.8%、「家族に影響があった」が14.4%、「特に影響はなかった」が17.4%であった。なお、「わからない」は55.4%であった。



(29) どのような影響があったか(自由記述)

主な意見

- 休止期間は想いを語る場がなく、気持ちが重くなっていた様子だった。
- 外出の頻度が減り、家に閉じこもりがちになり病状が進んだ方がみえた。
- 家族の方は、電話でお互い連絡を取り合っておられたが、やはり直に話ができない、ストレスが発散できなかったと言われた方がいた。
- 認知症の人の外出の機会が減り、認知症の人が同居家族とトラブルになったと報告を受けたケースがあった。
- お一人暮らしの方の参加者様に少いうつと幻聴や幻覚症状らしき発言が時折見られるように感じている。
- 地域の方々から、カフェがなくて淋しいとの声があった。
- 地域の方々の様子を知るように心掛けていたが、外に出なくなった事で弱っていかれる方のケアが不十分になってしまったこと。
- 認知症の症状が悪化した。
- 血液検査の数値が悪くなった。
- 楽しみ場（家族と一緒に参加）がなくなり、と同時に面会も直接的でなくなった為、寂しいと思われている。
- 毎日、散歩途中にカフェに来店されることを日課としていた認知症本人が休止したことで、カフェの場所がわからなくなり、再開時に家族とともに来店された。
- 営業時間の短縮により、遅い時間に来店されていた複数の方々を利用できなくなった。
- 家族が交流したり、家族自身の気持ちを話せる場所がなくなり、再開時に、「休止時にはかなりストレスをためていた。」と話された。
- 「外出の機会が減り、生活に張りがなくなった」との意見があった。
- 認知症カフェ中止に加え、デイサービスも一旦中止となった時、1か月以上自宅で過ごし、

認知症の進行と筋力低下がすすみ、ADL 低下にて家族の負担も大きくなった。

- 自宅でゴロゴロ寝てばかりとなり、やる気を無くし、歩行状態も悪くなった。
- 直接の影響は調べていないが、定期に開催していない事で利用者の定着が難しくなって必要な人への提供が出来なくなっている。
- 外出する機会が減り、家族間の関係が悪化した。
- 再開した時に家族送迎が増えた。
- 認知症の方ははじめ、いつも通りに、定期開催日に中止していてもきてくださったが、その後、自宅でこもりそうになり病状が進んだため、介護保険のデイサービスの回数を増やしていると情報が入った。
- ADL 低下やうつ状態、外へ出て交流できる場の問い合わせや相談が増えた。
- 体力面での低下（歩行速度が落ちた）
- 会話が少なくより無口になられた。
- 出掛ける場所が減ることで、気力・体力の低下や介護者のストレスの増加、感染予防対策のための労力の増加。
- 笑顔が少なくなった。
- MCI の人が認知症となり施設入所。参加していた時は明るい人が表情が暗くなった。残念がってみえる。

(30) 活動の休止・縮小やコロナ禍での継続にあたって運営者として困ったこと

(自由記述)

主な意見

- 予約制にしているため、中止や再開の連絡はスムーズに行えたが、予約者以外の人への周知が十分に行えなかった。
- 再開してコロナにかかった時の保証など心配です。
- 今後も医療機関の使用が難しいため他会場を検討している。他会場を活用する場合、運営スタッフの確保が難しくなる可能性がある。
- 休止の際はどうか告知、周知させるか、もしも、来られる方がいるかとも思い、休止に決めたときは開催場所まで足を運びました。
- 参加者の連絡先を把握していないため、再開をすることになった際にどのように案内していくべきか。
- 休止や再開の判断基準、参加希望者が定員を超えてしまった際の判断。
- 振り返ると、休止の判断を誰かに相談するべきであったのかと思う。相談なしにかなり早い段階で人の流れを止めるようにしていたので、それが良かったのかはわからない。
- 休止のお知らせ（チラシ配布）を行ったが、当日来所される方々がおり申し訳なかった。
- 屋外スペースのみの開催のため、相談者が話す時にプライバシーの確保が難しかった。
- 認知症カフェとして、カフェ自体は運営しているので、来客者数が大幅に減少するので、NPOの運営に影響があります。
- 本人・介護者が参加を望んでいても家族から参加を止められている。
- 福祉施設が借りられなくなり開催場所の選定に困った。

(31) 再認識した、認知症カフェの役割やカフェの効果等(自由記述)

主な意見

- 延期や中止の連絡をすると、参加予定者から「楽しみにしている」「早く再開してほしい」「行くところがなくてつまらない」再開の希望が強く聞かれた。また、カフェに参加していた認知症の人とその家族が、カフェが中止の中、何度かいきいき支援センターに顔を出し、いきいき職員が話し相手になって対応した。認知症の人や家族にとって、カフェで雑談ができることが息抜きになっているのだと改めて認識した。
- 人と人との関わりや、交流が認知症の方々にだけでなく、人間にとって大きな意義がある事を改めて認識しました。出かける事、人と話すことが少なくなり、特に一人暮らしの高齢者にとって退屈で暇な毎日です。少しでもそれを解消できたらと思います。
- 認知症があることによって、地域の方々とつながりがとても広がっていき、来られていない高齢者の情報も耳にすることができるのがとても大切だった。
- コロナ以前に参加されていた方から対面開催を望む声が多く寄せられ、皆さんの日常生活の中に必要な場所と時間であることを再認識いたしました。
- ケアマネジャーは、普段の仕事は単独で行うことが多い。認知症カフェはスタッフが同じ場所・時間・目的を持って、協力し合える行事として、事業所が一つにまとまる効果があると考える。また、認知症関連の事業所や公的機関とも情報のやり取りや協力依頼ができるきっかけにもなる。
- 高齢になればなるほど感染を恐れ、外出しない方が増えた。自宅ではコロナのニュースばかり TV でやっているため、精神的に落ち込む方が多くなった。開催により、参加者が「久しぶりに笑った」などの声が多く、カフェの場が参加者の気分転換となり話などの交流は認知症予防につながると実感した。人と人とのつながりの大切さも感じる機会となった。
- カフェに来るのが楽しみと言われていた。ささやかですが喜んでもらえて運営側も満足していた。また運営側（ボラさん）も集まる楽しみを実感していたことを再認識した。
- 認知症の方や介護の方の居場所を作りたい、そんな思いのボランティアで立ち上げたカフェです。認知症の方や介護の方にとってはコロナであろうがなかろうが居場所は必要です。
- 居場所を提供できず辛い思いです。
- 自粛（休止）期間があったことで、参加者同士や参加者スタッフとの関係は深まった。
- 定期的に互いに変わらない様子を確認し合えることは、とてもよい機会となる。
- 喫茶方式を行わなくなったため、気軽にお話ができる雰囲気以前に比べてなくなり、参加しなくなった人もいます。喫茶による雰囲気や楽しみが大切であると感じた。
- コロナを機に地域の喫茶店に場所を移しカフェを再開。なじみの場所の喫茶店は運営者にとっても落ち着いた雰囲気の中で、普段抱えているものを吐き出したり、リフレッシュできる場所なのだと改めて感じた。病院内や、施設、事業所等堅苦しい場所での開催以外の地域の方の違う一面や表情、参加している雰囲気も違い、地域密着での開催もこれからは大切と感じた。

(32) コロナ収束後も含め、今後新たに実施したいと考えていること(自由記述)

主な意見

- 参加者の言いたいことを引き出せるプログラムにしたい。もっと皆さんのことを知っておけば良かったと感じているので。
- 本人に了解が得られれば、参加者の連絡先を把握してお手紙などを通じて連絡をとりながら実施していきたい。
- 自カフェだけでなく、他のカフェそれぞれの特徴や強みを互いに理解し、運営者同士がつながって、カフェの質向上や地域への案内につなげていきたい。
- 喫茶店での開催のノウハウを生かし、市内のカフェで出前型カフェ（出張認知症カフェ）を企画し、認知症カフェを体験することにより、カフェの周知や地域の方々が認知症カフェをやってみたいと思って下さる方が出てくるといいなと思います。
- コロナ収束後は、医療に特化したプログラム構成も盛り込んでいきたい。また、認知症カフェという名称にとらわれず、多様な職種とのネットワーク作りを進めて幅広い相談対応が実施できるカフェを目指したい。
- 新型コロナウイルス感染症デルタ株が収束を迎えてから、オンラインの準備を行うしかないと考えている。できれば、短大の学生が認知症カフェの手伝いをしており、若い方と一緒にオンラインを利用できればよいと考えている。
- コロナ禍にて急速に発達したICTを少しずつでも取り組んでいけるよう、スマホ教室等の情報に触れる機会の確保。
- 地域高齢者とスマホの活用、指導の場。これからますますデジタル社会になっていくので。今回のコロナワクチン予約もTEL受付からLINE等のネット予約に突然切り替わって、端末も持っておらず、自力で予約ができない高齢者がたくさんいたから。
- それこそ「認知症カフェサミット」をオンラインで市や県単位で開催してはどうだろうか？「地域の垣根を外す」
- 「こども食堂」との連携及び交流をおこない、多世代交流の場としていく。
- 他のカフェとの連携。
- まだ開設して間もないので。認知症カフェがあることをSNS媒体を使いながら、丁寧に発信していきます。
- 新たにではなく以前のようにレクの充実、地域の方向けの認知症講座、相談などを充実。
- 老健、グループホーム、包括との共同開催であり、これまでも看護師・介護職員だけでなくリハビリや管理栄養士など共に活動してきました。それぞれの職種を活かしたカフェが再開できたらと思います。
- 地域住民主体のカフェにサポート役として参加できるような形にするなど、地域力で運営していくカフェにできないかと思う。
- カフェにて、本人もスタッフの一員としての活動ができるようにしたい。

V. 本人・家族ヒアリング

〔カフェの意義〕

- ・ 自分が妻を介護している間に行く場所がなく、ほとんど毎日スーパーで時間をつぶしていた。認知症カフェや家族会の交流会のような場があちこちにあると、居場所として有効だと思う。〔家族〕
- ・ 居場所がないという思いから、カフェの立ち上げにかかわった。常設になると、常に居場所があるという安心感がある。〔家族〕
- ・ ある程度親しくなれば、自分たちで会って話をする機会をつくれるが、最初はそれができないので、ここに行けば誰かと話をできる場としてオープンになっているところがあるのはありがたい。〔家族〕
- ・ 平日はデイサービス等に通うが、日曜は買い物程度しか外出できず、家にいることが苦痛だった。日曜日をどう過ごすかが大きな悩みで、日曜に開催している認知症カフェを探した。〔家族〕
- ・ 仕事をしているので、平日の昼間は行けない。平日の夜、土日に開催しているところに行っていた。〔家族〕
- ・ 普通の喫茶店では、一緒に行った人とはしか話をしないが、認知症カフェではそれ以外の人とも話ができて、多様な交流の場である。〔本人〕
- ・ 介護をしていた母も亡くなり、コロナでカフェにも行けなくなったが、カフェで知り合った人（本人）との交流は続いている。〔家族〕

〔ご本人にとって〕

- ・ 本人がリラックスして、自由に話せる人・場所がないのではと気付いたとき、同年代の人からカフェの話聞いたことを思い出して行ってみた。〔家族〕
- ・ 最初は、地下鉄の中で迷子になったり、乗り間違えたり、行くのが大変だった。何度も繰り返して、今は一人で行っている。場所が変わると、大雑把には分かっててもそこまで一人で行けない。〔本人〕
- ・ 本人は、最初は「自分は違う」と仕方なくついてくるという感じだったが、スタッフに助けをもらいながら、徐々に、何も考えずに話をできることを楽しめるようになっていく。〔家族〕
- ・ 野球の話など雑談をしている。〔本人〕
- ・ 地域の人とは認知症のことを話すわけではなく、地域の昔話などフランクに話ができ、とても居心地がよく、リラックスができて安心できる居場所。〔本人〕
- ・ 相づちを打つ程度でも、理解できる話題やスピードで話をしている。話がかみ合っていないと思うときもあるが、よかったと思う。〔家族〕
- ・ 週1回のカフェは、週の日課になっている〔本人（支援者）〕
- ・ （カフェに行くのは）同じ認知症の人が集まっているからかもしれない。仕事ができなくなってきて仕事にバカにされたり、友達ができなくなったりしたが、ここでは安心できる。〔本人〕

- ・ 認知症カフェは、「認知症」とうたっているのに、わざわざ病気のことを話さなくても、安心して行くことができる。〔本人〕
- ・ 近所の普通の喫茶店だと、近所の人々の悪口や噂話が多く聞こえてくるが、認知症カフェではそういう話がないので安心して過ごせる。〔本人〕
- ・ 仕事や社会と切り離されてしまうなかで、認知症の知識があり理解がある人に囲まれて、和やかに過ごすことができ、社会とつながれてありがたい。〔家族〕

〔ご家族にとって〕

- ・ どうしていいかわからない、誰かに相談したいけどなかなか相談できない時にカフェに行くと、同じ立場の人や自分たちを支援しようと思っている人と出会え、いい話を聞けたりする。信頼できると思える人と出会えるのは、安心感につながる。〔家族〕
- ・ 本人同士で話している間に、少し離れて一息つくことができる。悩みを相談し、日々の経験を共有できる人がいるとうれしい。とにかく話をしたい、聞いてほしい。〔家族〕
- ・ 日常生活で常に気を張っているなかで、家族同士でおしゃべりするだけで、少し気が楽になり孤独感がいやされる。会って話すことはありがたいし助かっている。もっと早く知りたかった。〔家族〕
- ・ 友人はいても、「大変ね」と言われるくらいで、介護や認知症に関する深い話はできない。〔家族〕
- ・ 同じ立場の人でないとむなしい感じがしてしまう。〔家族〕
- ・ カフェや交流会に通うことで、何かあっても、話を聞いたり教えてくれる人がいる、と思え、少しずつ「何とかなっていくかな…」と思えるようになってきた。〔家族〕
- ・ 近所の人には認知症のことを言いづらいつ感じていることもあり、自宅からは少し離れたカフェであることが、かえって気楽でいいのかもしれないが、近くに話せる人がいたら、もっと頻繁に会って話をしたい。〔家族〕

〔運営者・カフェに望むこと〕

- ・ スタッフには、「待っていました、よく来てくださいました」と歓迎されていることの声をかけてほしい。〔家族〕
- ・ 本人だけではなかなか会話が続きにくいこともあるので、座る場所や会話のきっかけをさりげなくフォローしてくれるとありがたい。〔本人〕〔家族〕
- ・ スタッフはでしゃばらず聞き役になってくれる。スタッフの人が話すぎると、消化不良になってしまう。〔本人〕
- ・ 「いいな」と思ったのは、話がしやすく、自由に気楽に話せるところ。一方、専門職、介護事業所がやっているような、課題を拾おうとしているところは話がしづらい。〔家族〕
- ・ 運営者が、認知症や認知症の人のことをバカにしたり、本人や家族が傷つくようなことを言う人は遠慮してもらおう、という姿勢なので、安心して過ごすことができる。〔本人〕

- ・ 創作する認知症カフェなどは、単につくることが目的になっていると楽しめないで、そういうところには自分
は行かない。自分が行っているところでは、言葉でのやりとりや作業が難しくても、例えば指さして色や大きさを
選ぶなど、本人の意思ややりたいことができることに丁寧に寄り添って創作をしてくださり、一緒に参加したと
いう一体感や、モノができたという達成感を感じている。〔本人〕
- ・ サロンで、認知症に触れていないところ、認知症予防をうたっているところは、あまり楽しくない。〔家族〕
- ・ みんなで畑をつくるなど、本人が働ける（できることをやらせてくれる）ところがあるとよい。公園など屋外で
活動できるとよい。〔家族〕
- ・ ウォーキングをできるとよい。（以前やっていた）テニスはこんなにできなくなったのかと思うが、歩くのは楽し
いし、迷子になっても歩くのは疲れない（支援者：安全に体を動かせる機会があるとよい）。〔本人〕
- ・ 簡単な体操（コグニサイズなど）ができるとよいとも思うが、基本はとにかく話したい。〔家族〕
- ・ 行政の情報も教えてもらえるのはありがたい。〔家族〕
- ・ 困っていることや何気ない会話から、情報交換もできて地域包括支援センター等につないでもらえるのは
ありがたい。〔本人〕
- ・ 同年代の人や知っている人がいないと行きにくい。自宅からは少し遠いが、知り合いから教えてもらったカフ
ェに月 1 回行っていた。〔家族〕
- ・ 自分と同じような立場の人と情報共有したい、話したい、気持ちを共有したいという人が、予防目的の人
が多いところに行ってしまうとあわない。介護者中心とっていたところも、予防目的の人が多くなっているよ
うに思う。自分と近い人がいるかいないかで、行った満足感が異なる。〔家族〕
- ・ 立地や行きやすいこと（交通機関や駐車場）も重要。〔家族〕

〔コロナ禍の影響〕

- ・ コロナで行くところがなくなり、外に出て人と会って話すことがなくなり、（本人が）「ガツツ」きた。他の人と
のふれあいがなくなって、散歩であいさつや少し立ち話をする程度でも、（その人が誰かは忘れてしまうが）
うれしかったようだ。〔家族〕
- ・ コロナでも、自分はデイサービスに行けたし、よく行くカフェのいくつかも活動を継続していたのでよかったが、
一時休止したカフェで再開時に会った人は、「誰とも会わずにさみしかった」と言っていた。〔本人〕
- ・ （コロナでいつも行っているところが閉まったといったことはあるか、との問いに対して）よくあるけど、忘れてし
まっている。飲みに行ったりするのも、店で何かをなくしてしまうので（コロナとは関係なく）行くのをやめた。
〔本人〕
- ・ コロナで、家にいるしかなかったときはどうしようかと思ったが、自分が行っているカフェは、（一部の時期を除
き）本人と家族に限って来所可としてくれたので、助かった。〔家族〕

参考資料

市町村調査票
認知症カフェ調査票

市町村名		担当者職氏名	
担当課		メ	ール
電話			

1 貴市町村が把握している認知症カフェは何か所ですか。

※ 令和3年6月末時点。

※ 「認知症地域支援・ケア向上事業」以外で設置した認知症カフェについても、市町村の担当課で把握している範囲で回答をお願いします。

〔「令和2年度及び令和3年度当初認知症総合支援事業等実施状況調べ」（令和3年7月1日付愛知県福祉局高齢福祉課長依頼文（令和3年6月30日厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課事務連絡）の「認知症カフェの設置状況調べ（様式6）」と同様。〕

↓ 箇所数を記載 ↓

開設主体	市町村把握数 (休止等含む)	左記のうち2021.7時点で開催している箇所数
① 市町村		
② 地域包括支援センター		
③ 介護保険事業所		
④ 介護保険事業所以外の社会福祉法人		
⑤ 認知症疾患医療センター		
⑥ 医療機関		
⑦ 薬局		
⑧ NPO法人		
⑨ ボランティア・地域住民		
⑩ 民間事業者		
⑪ その他 ()		
計		

2 認知症カフェに期待する役割は何ですか。

↓ 該当するものに○を記載（3つまで）

	① 本人、家族と地域の人や専門職等との多様な交流
	② 認知症の人の居場所、孤立防止、社会参加（ボランティア等運営への参加を含む）
	③ 家族支援、介護負担の軽減、家族間の交流
	④ 専門職への相談、専門職へのつなぎ
	⑤ 早期発見・早期支援
	⑥ 参加者が認知症について学ぶ場
	⑦ イベント等による楽しめる機会の提供
	⑧ 認知症・介護予防
	⑨ 地域住民等に対する認知症に関する普及啓発・理解促進
	⑩ その他（具体的に⇒

3 貴市町村における認知症カフェとして位置づける際の基準はありますか。

※ 介護保険事業計画等への記載や、支援施策（広報・HP への掲載等、予算を伴わないものも含む）の対象とする場合の要件を記載してください。

基準無の場合は、○を記載 ↓

	基準有（内容を記載）	基準無
① 開催回数		
② 開催時間		
③ 参加対象者属性 該当するものに○を記載	認知症の人本人	
	家族	
	地域住民	
④ 運営スタッフ属性（具体的に）		
⑤ その他（具体的に）		

4 市町村行政の立場で、認知症カフェに対して何らかの支援をしていますか。

※ 通いの場やサロン等を対象としたもので、認知症カフェ運営者が利用可能なものを含む

(1) 立ち上げ資金補助

↓ 該当するものに○を記載

① 実施（具体的に⇒
② 実施を検討
③ 未実施

(2) 運営費補助

↓ 該当するものに○を記載

① 実施（具体的に⇒
② 実施を検討
③ 未実施

(3) 立ち上げ・運営マニュアル等の作成・配布

↓ 該当するものに○を記載（①実施の場合はア～ウの該当するものに○を記載）

① 実施	↓（マニュアルの作成者）
	ア 独自作成
	イ 認知症の人と家族の会愛知県支部作成*
	ウ その他機関作成（具体的に⇒
② 実施を検討	
③ 未実施	

*平成30年度に愛知県委託により作成したもの

（参考）<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/chiikihoukatu/ninchisho-cafe.html>

(4) 広報支援（個々のカフェの紹介等）

↓ 該当するものに○を記載（①実施の場合はア～オの該当するものすべてに○を記載）

①実施	
↓（広報の方法）	
	ア 市町村 HP 掲載
	イ 市町村広報誌掲載
	ウ ケアパス掲載
	エ 公共機関にチラシ配架
	オ その他（具体的に⇒
② 実施を検討	
③ 未実施	

(5) 関係機関への周知

↓ 該当するものに○を記載（①実施の場合はア～クの該当するものすべてに○を記載）

① 実施	
↓（周知先）	
	ア 地域包括支援センター
	イ 初期集中支援チーム
	ウ 医療機関
	エ 介護保険事業所
	オ 認知症サポーター
	カ 民生委員
	キ 町内会・自治会
	ク その他（具体的に⇒
② 実施を検討	
③ 未実施	

(6) 関係機関との連携強化・ネットワークづくり

↓ 該当するものに○を記載（①実施の場合はア～ウの該当するものすべてに○を記載）

① 実施	
↓（実施内容）	
	ア 定期的な情報共有
	イ 連絡会・交流会等の設置・開催
	ウ その他（具体的に⇒
② 実施を検討	
③ 未実施	

(7) 会場提供・確保支援

↓ 該当するものに○を記載（①実施の場合はア～イの該当するものすべてに○を記載）

① 実施
↓ (内容)
ア 公共施設の優先利用・使用料減免
イ その他（具体的に⇒
② 実施を検討
③ 未実施

(8) 人的支援（スタッフ等の派遣・紹介等）

↓ 該当するものに○を記載（①実施の場合はア～キの該当するものすべてに○を記載）

① 実施					
↓ (派遣人員及び派遣目的)					
目的	企画 運営	課題把握 情報共有	相談 対応	運営 補助	その他
人材					
ア 行政職員					
イ 地域包括支援センター職員					
ウ 認知症地域支援推進員					
エ 専門職					
オ 認知症サポーター					
カ ボランティア					
キ その他（ ）					
② 実施を検討					
③ 未実施					

(9) カフェ運営者等を対象とする研修の開催

↓ 該当するものに○を記載（「①実施」の場合はテーマ、講師を記載）

① 実施（H30、R1、R2、R3 に実施した場合）
↓ (開催内容：今年度の予定もしくは直近の開催内容を2回分記載してください)
開催時期： テ ー マ： 講 師：
開催時期： テ ー マ： 講 師：
② 実施を検討
③ 未実施

(10) 地域住民等に対する認知症カフェに関する普及啓発・理解促進

↓ 該当するものに○を記載

	① 実施
	② 実施を検討
	③ 未実施

(11) その他認知症にカフェに対する支援があれば、その内容を記載してください

--

5 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、認知症カフェに対して何らかの対応・支援をしていますか。

↓ 該当するものすべてに○を記載（①③⑤に該当の場合は、その内容についても回答ください）

	① 開催自粛要請
	↓（自粛要請の判断基準）該当するものすべてに○を記載
	ア 自治体の方針
	イ 担当課の判断
	ウ 会場の都合
	エ 運営者やスタッフからの要請
	オ 住民からの意見
	カ 本人・家族からの意見
	キ その他
	② 開催継続要請
	③ 感染予防対策・新しい生活様式対応への支援・補助
	↓（実施内容）該当するものすべてに○を記載
	ア 消毒液・アクリル板・体温計等感染予防に関する物品等の配布・購入補助
	イ オンライン活用支援
	ウ 他事例等の情報提供
	エ その他（具体的に
	④ 感染状況等の情報提供
	⑤ 認知症カフェ間のつながりの維持・情報共有
	（実施内容具体的に⇒
	⑥ 従来の支援策（補助金等）の要件の緩和・変更
	⑦ その他（具体的に

6 認知症カフェに関連して、認知症地域支援推進員はどのような活動をしていますか。

↓ 該当するものすべてに○を記載（②③に該当の場合は、その内容についても回答ください）

	① 認知症カフェ立ち上げのニーズの拾い上げ・開設支援
	② 関係機関への周知
	↓（周知先）該当するものすべてに○を記載
	ア 地域包括支援センター
	イ 初期集中支援チーム
	ウ 医療機関
	エ 介護保険事業所
	オ 認知症サポーター
	カ 民生委員
	キ 町内会・自治会
	ク その他（具体的に⇒
	③ 関係機関との連携
	↓（連携内容）該当するものすべてに○を記載
	ア 対象となりそうな人への声かけ
	イ 運営スタッフや専門職の紹介
	ウ カフェ参加者の必要な支援機関へのつなぎ
	エ その他（具体的に⇒
	④ 地域住民への働きかけ（カフェへの理解促進やボランティア参加促進等）
	⑤ 運営スタッフとしてカフェに参加（プログラムの企画・検討、相応対応、当日運営等）
	⑥ 参加者としてカフェに参加（情報共有等）
	⑦ カフェ運営者間の情報共有・連携強化（交流会の開催、カフェ通信の作成等）
	⑧ その他（具体的に⇒

7 貴市町村において、認知症カフェに関してどのような課題がありますか。

※ 本問については、市町村職員、認知症地域支援推進員（自治体を代表して1名）の双方がお答えください。

【市町村回答】

① 参加者に関すること	
② 運営に関すること	
③ 地域における理解に関すること	

④ その他	
-------	--

【認知症地域支援推進員回答】

① 参加者に関すること	
② 運営に関すること	
③ 地域における理解に関すること	
④ その他	

8 貴市町村において、認知症カフェに対してどのような支援が必要だと考えていますか。

※ 本問については、市町村職員、認知症地域支援推進員（自治体を代表して1名）の双方がお答えください。

※ 新型コロナウイルス感染症への対応を含め、認知症カフェ全般に関してご記載ください。

【市町村回答】

【認知症地域支援推進員】

9 次年度以降、新たに実施予定（検討中含む）の認知症カフェに関する事業はありますか。

設問は以上です。ありがとうございました。

選択肢の回答の際は、□に✓を記載してください。
データ上では、□をクリックすると✓が入ります（もう一度クリックすると✓は消えます）。

1 認知症カフェの基本情報

(1) カフェの概要

カフェの名称			
所在地（市町村） ※名古屋市内は区まで記載		開設年（西暦）	
回答者所属		回答者氏名	
電話		メール	

(2) 開設主体 ※1つに✓

<input type="checkbox"/> ① 市町村	<input type="checkbox"/> ⑤ 医療機関
<input type="checkbox"/> ② 社会福祉協議会	<input type="checkbox"/> ⑥ NPO 法人
<input type="checkbox"/> ③ 地域包括支援センター	<input type="checkbox"/> ⑦ 住民ボランティア
<input type="checkbox"/> ④ 介護保険事業所	<input type="checkbox"/> ⑧ その他（ ）

(3) 開催場所 ※1つに✓

<input type="checkbox"/> ① 介護保険事業所	<input type="checkbox"/> ⑤ 社会福祉協議会内
<input type="checkbox"/> ② 医療機関内	<input type="checkbox"/> ⑥ 地域の喫茶店や飲食店
<input type="checkbox"/> ③ コミュニティセンターや公民館	<input type="checkbox"/> ⑦ ⑥以外の地域の店舗・商業スペース
<input type="checkbox"/> ④ 市町村役場内	<input type="checkbox"/> ⑧ その他（ ）

(4) 主なプログラム ※当てはまるものすべてに✓

	コロナ前	現在
① ミニ講話	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② レクリエーション・アクティビティ （音楽、創作・工作、体操等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 専門職による相談会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 本人・家族によるミーティング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ カフェタイム（フリータイム）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ その他（ ）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 特になし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(5) 提供している飲食物 ※当てはまるものすべてに✓

	コロナ前	現在
① 食事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 飲み物（コップで提供）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 飲み物（ペットボトル等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 軽食・お菓子（お皿で提供）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 軽食・お菓子（個包装）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 提供していない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(6) 開催頻度 ※1つに✓

	コロナ前	現在
① 週1回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 月1～2回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 2～3ヶ月に1回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 半年に1回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 不定期	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(7) 1回の開催時間 ※1つに✓

	コロナ前	現在
① 30分未満	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 1時間程度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 1～2時間程度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 2～3時間程度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 3時間以上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(8) 参加事前申し込み ※1つに✓

	コロナ前	現在
① 必要	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 不要	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(9) 参加者の連絡先の把握 ※1つに✓

	コロナ前	現在
① 把握している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 把握していない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(10) 1回あたりの平均的な参加者数 ※それぞれ人数を記載してください。

	コロナ前	現在
① 認知症の本人（高齢者）	人	人
② 若年性認知症の人	人	人
③ 認知症の人の家族	人	人
④ 地域住民	人	人
⑤ 専門職	人	人
⑥ その他（ ）	人	人

(11) 運営スタッフの数、属性 ※参加しているスタッフをすべて✓

	コロナ前	現在
1 回あたりの平均的なスタッフの参加人数	人	人
① 地域住民	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 認知症の本人	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 認知症の人の家族	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 医師	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 社会福祉士	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 介護士	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 看護師	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 保健師	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 理学療法士・作業療法士	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ その他 ()	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(12) 他機関との連携 ※当てはまるものをすべてに✓

<input type="checkbox"/> ① 地域包括支援センター	<input type="checkbox"/> ⑦ 医療機関
<input type="checkbox"/> ② 初期集中支援チーム	<input type="checkbox"/> ⑧ 民生委員
<input type="checkbox"/> ③ 社会福祉協議会	<input type="checkbox"/> ⑨ 町内会・自治会
<input type="checkbox"/> ④ 保健所・保健センター	<input type="checkbox"/> ⑩ 民間事業者
<input type="checkbox"/> ⑤ 居宅介護支援事業所	<input type="checkbox"/> ⑪ その他 ()
<input type="checkbox"/> ⑥ 介護保険事業所	<input type="checkbox"/> ⑫ 特になし → (14) へ

※ (12) で①～⑪を回答した方のみ

(13) 他機関との連携内容 ※当てはまるものをすべてに✓

<input type="checkbox"/> ① 広報・周知	<input type="checkbox"/> ⑤ 運営スタッフの参加
<input type="checkbox"/> ② 参加者の紹介	<input type="checkbox"/> ⑥ 会場提供
<input type="checkbox"/> ③ 必要な支援へのつなぎ	<input type="checkbox"/> ⑦ その他 ()
<input type="checkbox"/> ④ 専門職の参加 (相談対応等)	

(14) 認知症地域支援推進員*のかかわり ※当てはまるものをすべてに✓

<input type="checkbox"/> ① 企画・運営に関与している	<input type="checkbox"/> ③ 特にかかわりはない
<input type="checkbox"/> ② 参加者として関与している	

* 市町村に配置され、地域の支援機関間の連携づくりや、認知症ケアパス・認知症カフェ・社会参加活動などの地域支援体制づくり、認知症の人やその家族を支援する相談業務等を実施している。

(15) 運営費 (年間) ※1つに✓

<input type="checkbox"/> ① 5万円未満	<input type="checkbox"/> ③ 10万～20万円未満
<input type="checkbox"/> ② 5万～10万円未満	<input type="checkbox"/> ④ 20万円以上

(16) 運営費の主な財源 ※ 1つに✓

<input type="checkbox"/> ① 参加者の参加費	<input type="checkbox"/> ③ 自治体からの補助・助成（開設主体が自治体の場合も含む）
<input type="checkbox"/> ② 開設主体の予算	<input type="checkbox"/> ④ その他（ ）

(17) カフェ運営における課題や必要な支援

(18) 認知症のご本人が参加できるように、力を入れていること・工夫していること

例：カフェの周知、関係機関との連携、運営上の工夫等 具体的に記載

2 新型コロナウイルス感染症による影響

(19) 現在の開催状況 ※1つに✓

<input type="checkbox"/> ① 休止中（コロナ禍では一度も開催していない）	→ <input type="checkbox"/> 再開の意向あり / <input type="checkbox"/> 閉鎖を検討
<input type="checkbox"/> ② 休止中（コロナ禍で開催したことはあるが現在は休止中）	→ <input type="checkbox"/> 再開の意向あり / <input type="checkbox"/> 閉鎖を検討
<input type="checkbox"/> ③ コロナ禍で休止したが、現在は再開している	
<input type="checkbox"/> ④ コロナ禍でも継続開催（休止はしていない）	

(20) 各時期における活動形式・活動内容 ※当てはまるものすべてに✓

	コロナ以前 (2020年2月以前)	コロナ当初 (2020年4月～5月)	最近 (2021年6月～7月)	今後の予定 ※実施意向も含む
1) 参集して開催	① <input type="checkbox"/>	① <input type="checkbox"/>	① <input type="checkbox"/>	① <input type="checkbox"/>
2) オンラインツールの活用 (オンライン開催・ 情報発信など)	② <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>	② <input type="checkbox"/>
3) 参加者への手紙・便 りの送付	③ <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>	③ <input type="checkbox"/>
4) 参加者への定期的な 電話連絡	④ <input type="checkbox"/>	④ <input type="checkbox"/>	④ <input type="checkbox"/>	④ <input type="checkbox"/>
5) 参加者のお宅を訪問	⑤ <input type="checkbox"/>	⑤ <input type="checkbox"/>	⑤ <input type="checkbox"/>	⑤ <input type="checkbox"/>
6) 完全に活動休止		⑥ <input type="checkbox"/>	⑥ <input type="checkbox"/>	⑥ <input type="checkbox"/>

※「今後の予定」には、実施を検討しているもの、実施の意向があるものも含まれます

(21) 上記2)～5)の具体的な内容や、コロナ禍でも参加者とのつながりを保つために行った工夫があれば教えてください。(今後の意向も含めて)

例：取組の詳細（実施方法、頻度、場所等）、オンラインの場合は使用したツール、参加者の反応、効果・課題など
--

(22) 対面で開催する際に行っている工夫や配慮

例：感染対策、密の回避、コミュニケーションの工夫、プログラムの工夫など

(23) オンラインの活用について難しい点 ※当てはまるものすべてに✓

- ① 運営者側の通信環境・機器がない
- ② 参加者側の通信環境・機器がない
- ③ 運営者側がオンラインツールの活用方法がわからない
- ④ 参加者側がオンラインツールを使うことが難しい
- ⑤ 認知症の人がオンラインでコミュニケーションをとることが難しい
- ⑥ 参加者がオンラインの活用を望まない
- ⑦ 参加者の連絡先を把握していない
- ⑧ オンライン活用で特に難しい点はない
- ⑨ 運営者としてオンライン活用の意向はない

※オンラインを活用した方のみ

(24) オンライン活用の良かった点 ※当てはまるものすべてに✓

- ① 運営者の準備負担が少なかった
- ② 開催費用が押さえられた
- ③ 開催時間に融通がきくようになった
- ④ 遠方の人も参加ができた
- ⑤ 体調が不安定な人も参加ができた
- ⑥ 普段よりも多くの人に参加した
- ⑦ 専門職や講師に参加してもらいやすかった
- ⑧ 普段は見ない家族や支援者ともつながることができた
- ⑨ 参加者の自宅での様子がわかった
- ⑩ その他（)
- ⑪ 良かったと思う点はない

※オンラインを活用した方のみ

(25) オンラインの活用に適していると感じるプログラム・内容

*プログラム内容（講話、体操、相談、自由な会話等）や、参加形態（1対1、複数人の同時参加、情報発信のみ等）など。

(26) 活動を休止・再開した際の判断基準 ※当てはまるものすべてに✓

休止した際の判断基準	再開した際の判断基準
<input type="checkbox"/> ① 市町村の方針・要請	<input type="checkbox"/> ① 市町村の方針等
<input type="checkbox"/> ② 開催場所が使用できない	<input type="checkbox"/> ② 開催場所が使用できるようになった
<input type="checkbox"/> ③ 利用者の参加自粛が増えた	<input type="checkbox"/> ③ 利用者から再開を望む声が高まった
<input type="checkbox"/> ④ 運営者・スタッフの参加が困難となった	<input type="checkbox"/> ④ 運営者・スタッフから再開を望む声が高まった
<input type="checkbox"/> ⑤ 近隣の感染者発生状況を踏まえ自主的に判断	<input type="checkbox"/> ⑤ 近隣の感染者発生状況を踏まえ自主的に判断
<input type="checkbox"/> ⑥ 他カフェの実施状況を踏まえ自主的に判断	<input type="checkbox"/> ⑥ 他カフェの実施状況を踏まえ自主的に判断
<input type="checkbox"/> ⑦ その他 ()	<input type="checkbox"/> ⑦ その他 ()
<input type="checkbox"/> ⑧ 休止していない	<input type="checkbox"/> ⑧ 休止していない
	<input type="checkbox"/> ⑨ 休止後、一度も再開していない

(27) 休止・再開の判断にあたっての相談先や参考にした情報

(28) 活動の休止・縮小等・利用控えによる本人・家族への影響 ※当てはまるものすべてに✓

① 認知症の本人に影響があった
 ② 家族に影響があった
 ③ 特に影響はなかった → (30) へ
 ④ わからない → (30) へ

※ (28) で①②と回答した方

(29) どのような影響がありましたか。

(30) 活動の休止・縮小やコロナ禍での継続にあたって運営者として困ったこと

例：休止・再開の判断、感染対策、参加者との連絡、スタッフの確保など

(31) コロナをきっかけに、認知症カフェの役割や、参加者や運営者にとってのカフェの効果等について再認識したことがあればご記入ください。

(32) コロナ収束後も含め、今後新たに実施したいと考えていることがあればご記入ください。

(33) その他・自由意見

ご協力ありがとうございました。

本調査結果の結果については、「認知症カフェサミット」にてご報告予定です。
差し支えなければ、サミットの案内の送付が可能な住所をご記載ください。

(送付先住所)

〒

◆ 回答方法 ◆

①ファクシミリ もしくは ②メール にて調査票をお送りください。

(送付先)

愛知県福祉局高齢福祉課地域包括ケア・認知症施策推進室

ファクシミリ : 052- 954-6919 ※ 送付状不要

メール : chiikihoukatu@pref.aichi.lg.jp

令和3年

8月31日(火)

までのご返信にご協力ください